②２０１５年度　基調編

１	２０１５年度　公益社団法人日本青年会議所	会頭所信及び基本資料	７５
２	２０１５年度　公益社団法人日本青年会議所	近畿地区協議会　会長所信及び基本方針	９３
３	２０１５年度　公益社団法人日本青年会議所	近畿地区　京都ブロック協議会 会長所信及び基本方針	９４
４	２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所	理事長所信及びスローガン・テーマ	９６
５	２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所	基本計画、委員会・会議体活動計画	１０３
６	２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所	第２次収支予算書	１０６
７	２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所	会議構成員	１０８
８	２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所	組織図	１０９
９	２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所	委員長方針	１１０
１０	２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所	委員会配属	１１７
１１	２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所	出向者一覧	１１８
１２	２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所	年間公式スケジュール	１１９

公益社団法人日本青年会議所　２０１５年度会頭所信

柴田剛介

人は人生という絵を描く画家
私はいままでどんな絵を描いてきたのか
これからどんな絵を描こうとしているのか

【はじめに】

人口６，０００人のまちで育った少年期。先輩から貰った一着の古い柔道着を大切に、日々道場に通っていた。それは私にとって頼もしい友であった。「襤褸は着てても心は錦」とはよく言ったものだが、当時の私はそんな言葉も知るよしもなく、ただただ強くなりたい一心で練習に励んでいた。今から思えば、そのとき抱いていたのは幼さゆえの劣等感だったのかもしれない。いつか真新しいそれを身に着けたいと心の奥底では思い続けていた。その後進学のため、上京することとなる。私は３畳一間のアパートに下宿を決めた。決して十分な環境とは言えなかったが、その部屋の窓から見える景色は、無限の可能性を映し出し、私は新たな人生のスタートを切った。

物事には必ず始まりがある。その始まりは人それぞれに違うものであり、それは不平等であるかもしれない。その気まぐれに現れる不平等という感情は、私に期待感と健全な劣等感をもたらし、それらは絶えず新しい目標を与えてくれた。

私の心には部屋の窓から見えた景色が、今なお鮮明に残っている。人は誰でも、目を閉じると絵が思い浮ぶ。それはこれまで歩んできた軌跡であり、心の拠り所となる。また、その軌跡の先端には必ず目標があり、それが人々の希望となるのである。

人は人生という絵を描く画家である。やがて私は、社会に出て、企業の人となり、地域の市民となり、その都度目標を与えられ、振り返れば自分なりの絵を描いてきた。そしていま、私にかつてなく大きな目標を与えてくれているのは青年会議所であり、これから新たな絵を描こうとしている。

物事は見えるものだけが本質ではない
「何が起こっているのか」核心を明らかにする必要がある
核心を追求し続けるところには、必ず青年がいる

【一人の青年の核心から一世紀】

２０世紀初頭アメリカ第４の都市であったセントルイスは、同年にオリンピックと万博が開催されるなど、文化的、芸術的に繁栄した流行発信の都市であった。そのセントルイスに伝わる文化を守るために、ハーキュレイニアム・ダンス・クラブを主催する一人の青年がいた。その青年とはヘンリー・ギッセンバイヤ・ジュニア。ＪＣの創設者である。ある日、彼は市議会議員コローネル・ヒューズ・Ｎ・モルガンとのミーティングの中で、一つの核心にたどり着くこととなる。

当時セントルイスには、一本のハイウェイが開通し、その文明的発展は人々の希望となっていた。しかし、本当に住み良いまちをつくるのは文明だけではなく、そこには人々の心の拠り所となる文化が必要であり、それらを守れるのは市民の力であるという核心だ。ＡＣＴＩＶＥ ＣＩＴＩＺＥＮＳＨＩＰである。そして１９１５年１０月１３日、最初のチャプターとして進歩的青年市民協会（ＹＭＰＣＡ）を設立することとなる。これがＪＣ運動の始まりである。

核心を追求する青年は時として時代に風穴を開ける。それは昔も今も同じだ。誰もが経験したことのない難問にぶつかるのは、核心を追求する青年だからであり、ＪＣが先駆者と言われる所以でもあろう。成功、失敗全てを経験する。そして、この経験をすべて後世のために伝えていく。ＪＣとは、そのような組織なのである。

一世紀前の一人の青年の志と、今を生きる我々の志は、何一つ変わっていない。

【人生のものさしとは】

人は物事を評価するとき、組織の規模や経験の長さなど、数値的に判断しがちである。時には、その人の人生までも数字で判断してしまうこともある。しかし、人生は決して数字では評価できないと私は考えている。何故なら、人々の幸せにどれだけ貢献できたかが、人生を評価する唯一のものさしだと確信しているからである。

『成熟したナショナリズムと民間外交、
そして地域経営を通じて、日本の繁栄を願う。』

これが日本青年会議所２０１５年度の普遍的な考え方である。人々の幸せにどれだけ貢献できるのか。この人生のものさしをもって日本の繁栄を目指そうではないか。

私たちは深く結ばれている
国と私たちはもっと深く結ばれていく
国のかたちを描くのは青年の任務だ

【東日本大震災から学んだ成熟したナショナリズム】

日本人として生まれたことを誇りに感じずにはいられない。東日本大震災がもたらした津波は無残な傷痕を残したが、日本とはどのような国なのかを改めて見直す機会となった。

震災直後、多くの人々は誰の要請を受けたわけでもなく被災地に駆けつけた。同じ日本という共同体に暮らす仲間のために、いま自分ができることを自ら考え、行動に移したのである。一人でも多くの仲間の安否を気遣い示した行動は、世界から賞賛を受けた。何故、多くの人々が支援に動いたのか。それは日本という国自体が、自然に成立した国家だからである。翻って、民族、言語、国土、文化、宗教といったナショナリズムの五大要素がほぼ一致し、しかもそれが自然に成立した国は世界でも日本くらいであろう。連綿と続く共通の文化や伝統の中で価値観を共有し、何かあった時は互いに助け合うといった心があり、そこには顔や名前を知らなくても家族であるという絆が存在している。私はそれを成熟したナショナリズムと呼ぶ。

忘れがちなこのナショナリズムの大切さを、人々は震災によって再び気づくこととなる。日本の底知れぬ力を知るとき。日本人として再び誇りを取り戻すのである。

【国史を学ぶことが安全保障の基本】

世界各地では、思想や宗教を背景とする国家間・民族間の紛争や対立が起きている。かつて文明国の多くも、強力な指導者の下で戦い、国家の統一や維持を図ってきたことは歴史が語っている。一方日本は、そのようなイデオロギーの紛争や対立でできた国家ではなく、共通の文化や伝統の中で価値観を共有することによってできた、２６７４年の悠久の歴史を誇る万世一系世界最古の自然国家である。

そのような自然国家である日本は、諸外国と比べ遥かに安定した秩序を有しており、世界に誇れる国家となっている。この安定した秩序が保たれているのは、日本には地球全体を大きくゆっくりと流れる深層海流のような、２６７４年の悠久の歴史が流れているからであり、その中には日本固有の精神が宿っている。また、日本は外来文化を受け入れても、それらはあくまでも大海の表層を流れる水流のようなものであり、決して日本の歴史や精神を失うことはない。それらを日本流にアレンジをしてしまう

こと、時には自らの手で流行をつくり出してしまうことができるのは、日本の底知れぬ力の表れであり、そこには深層海流のような歴史と精神があるからである。だからこそ、日本は何処の国よりも崇高な理想を持つことができるのだ。

しかし、いまの日本はどうであろう。驚くことにこの誇るべき日本の歴史が、国内では日本史と呼ばれ世界史と同列に扱われている。そもそも日本史は、日本語が教育の場では国語と呼ばれるように、国史と言われるべきであって、若者が国史を学ぶことは世界を見ても常識と言ってよい。つまり、諸外国を見てみると国史について知らない国民は皆無なのである。しかしながら、どれだけの日本国民が国史、例えば日本の建国について理解をしているであろうか。残念な話だが、アメリカであればジョージ・ワシントン、中国であれば毛沢東の存在を知っている日本国民の方が多いかもしれない。これでは到底、日本が当り前の国だとは言えないのではないだろうか。

未来を担う小中学生を中心に、国史を学ぶ機会をつくり、日本を誇りに感じずにはいられない、そんな教育への取り組みを進めたい。

【日本人としての生き方】

日本では、「相手のために利害を考えず尽くすこと」は、何も特別なことではなく、自然と日常の中で繰り返し行なわれてきた。

これは自己犠牲と言った仰々しいものではなく、物事を相手の目で見て、相手の耳で聞くといった相手を慮る心である。この心が日常における人間関係の潤滑油となり、社会生活に豊かさを与えてくれている。身近なことでいえば、「玄関にさりげなく季節の花を飾りお迎えをする」や「夏の来客時には、玄関に打ち水をしてお迎えをする」などの心配りである。これらは道徳以前の、相手を慮るという情緒であり、自然国家である日本においては人間関係を構築する基本だ。日本人は、何が善で何が悪かという道徳律と共に、「何をすることが美しいのか」という民族特有の行動基準をもっているのである。つまり、「どう生きることが美しいのか」という美意識である。この独特の行動基準によって、日常生活の態度や姿勢から社会生活の倫理までが形づくられている。ある人の生き方に触れたとき「美しい」という感動が自然と湧き起こってくる時がある。人間同士の信頼関係は、規則や道徳を越えて、この感動の共有を通じて生まれてくるのである。

いま私たちは日本人としての生き方が問われており、それは「どう生きることが美しいのか」という美意識に大きく依拠している。

【理想の国家像を示す】

憲法とは、国家に権力を付与、制限すると同時に、主権者である日本国民がどのような国家体制を築いていくか、その基礎となる法規範である。しかしながら、現行憲法施行後６７年が経ついま、一度も日本国民の声を聴く機会がなかった。

近年、安全保障や平和維持、自然保護など、我々を取り巻く環境は大きく変わり、改憲・護憲の議論や憲法解釈についてメディアなどで目にする機会が増えた。この潮流で日本国民の憲法に対する関心度が高まりつつあるが、２０１５年に戦後７０年目を迎える日本において重要なのは、主権者である国民一人ひとりが建国の父になったつもりで、日本の歴史や精神に誇りをもち、世界が憧れる憲法を描いてみることである。２０１２年、日本青年会議所は改訂版日本国憲法草案を発表した。この草案をもとに論議を尽くし主権者意識の醸成を図ると共に、国民投票の投票年齢を改正法施行から４年後に「１８歳以上」に引き下げることが議論されているいま、未来の有権者である若年層でもＷＥＢやＳＮＳを使った憲法論議を起こしていきたい。

不易流行という言葉があるが、日本が連綿と受け継いできた歴史と精神、即ち「不易」と、時代と共に動く社会に適合すべきところ、即ち「流行」を見定め、いまこそ理想の国家像を示すときである。

【安全で安心な国を目指す】

北方領土や竹島の不法占拠、尖閣諸島領海侵犯並びに空域の管轄権主張など、国境問題や事件は優れたリーダーが現れないと解決に向かわない。しかし、我々はその出現をただ待つわけにはいかない。

北方領土は、占領前の生活やポツダム宣言後の惨事の語り部である島民の方々の高齢化が進み、一日でも早い返還が望まれ、竹島は、自国のナショナリズムの高揚のために不法占拠されており、時間と共に両国間の国民の関係が悪化している。また、この瞬間も力を背景とした一方的な行為によって、南シナ海では国家間の対立が続いており、東シナ海でも日本の領海への侵入が相次ぎ、海上保安庁や自衛隊が高い緊張感をもって警備を続けている。その中、国会では尊い命を守るため、限定的な集団的自衛権の行使について憲法解釈の変更が閣議決定され、法整備に向かっている。だからこそいま､安全保障という観点で領土領海領空について正しい知識と強い意志を持ち、安全で安心な国を目指す主権者意識を高めていきたい。

確かに生涯安全で安心な世の中など存在しないかもしれない。だからこそ、正しい情報を日本国民に対して完全に開示することと、併せて健全な歴史観と世界秩序の中で生きているという自覚が必要とされているのである。

また、排他的経済水域を含めると日本の国境は格段に広がり、その権益面積は世界で６番目の大きさとなる。まさに海洋国家といえるだろう。そこには６，８５２の美

しい島々が存在し、豊富な天然資源と共に日本国民を優しく豊かに包み込んでくれている。このかけがえのない財産をどのように守り発展させていくか。北方領土を中心に島々を調査し、未来を担う子供たちと共に３０年後のビジョンを描いていきたい。

生活を豊かにしてくれる解は必ず存在する。子供たちが夢を描き続ける限り、日本は世界に誇れる安全で安心な国へと一歩ずつ近づくのである。

【誇れる政府をつくる】

主権者（有権者）によって選ばれた政治家は、日本国民の生活を豊かにするために政治を執り行なう。また、その政治家によって管理される組織が政府である。つまり、政府の質は主権者（有権者）の質が反映されているのである。

これまで各選挙において立候補者が、故郷を誇りに思える教育を掲げているか、また労働生産性の高い政策を掲げているかなど、日本青年会議所の事業の観点から点検をしてきた。また、ＷＥＢ上に若年層をターゲットとした「ｅ－みらせん」をつくり、立候補者の生の声を届けることで、政治参画への関心度を高め政策本位による政治選択を推し進めてきた。さらに全国で公開討論会を開催し、クロストーク型を用いるなど、政策の違いだけではなく、立候補者の政治家としての力量や人となりまでも届けてきた。成熟した民主主義国家において、国や地域を良くするために与えられた手段は紛争や暴力ではなく選挙である。２０１５年３月、統一地方選挙が行なわれるが、これを好機として捉え、自らの責任で誇れる政府や地方自治体をつくる主権者意識を高めていきたい。

いまの政治を非難する前に、日本国民は主権者として政府の一部を担っていることを自覚し、自らの意思を示すときである。

世界の中の日本を強く意識する
世界に貢献できる国がある
その担い手こそ日本の青年だ

【国益を生む諸外国との民間外交】

これまで日本青年会議所は、民間外交を通じて世界の平和と安定に努め、日本の繁栄という目的達成のために世界中を飛び回ってきたが、創立当初から比べると世界情勢は激変している。間違いなく今世紀、世界の生産と消費の中心となるのは、中国や

ロシアを含んだユーラシア大陸であり、日本が現在の豊かさを維持するためには、この中国やロシアとの関係がこれまで以上に重要度を増すことは否定できない。

特に、中国は長い歴史を見ても日本との関わりが深い国である。近年、この中国の急激な経済成長が良い意味で競争を生み、さらなるアジアの繁栄ひいては日本の繁栄につながっている。１９８６年からカウンターパートである中華全国青年聯合会とは２００９年に「日中中期ビジョン５ヵ年計画」を結び、２０１４年「日中未来友好協定」を締結した。アジアを牽引する良きパートナーとして、先駆者的経験を積む日本青年会議所とアジアの大国を支える中華全国青年聯合会が手を結び、アジアの平和と安定に向け未来志向な関係を構築していきたい。

また、ロシアも文学・武道・アニメなど日本文化が浸透し、親日的で、価値観を共有できる大国である。この価値観の共有は、産業や教育面において互いの理解に対して障害が少なく時間を要しない。この両国間の成熟した関係において行なうオポラロシアとの交流は、戦後世界史上もっとも経済的に繁栄した日本企業の技術と経験が、今後さらなる両国間の繁栄に意義深い成果を導くと確信している。また、日本とロシアの学生たちの交流も、両国間の未来に明るい兆しとなるであろう。文化体験を軸とした互いの価値観を共有する未来志向な事業は、彼らを深い友情で結び、それは一律の友好だけではとどまらず、国家を支える人材育成ひいては両国間の平和と安定へとつながる、かけがえのない国益となるのである。

また、視野を広げると混沌とした社会情勢の中で迷走し、公平な機会が与えられない、もしくはその機会を十分に活用出来ず産業基盤が築けない国も多く存在する。しかし、それらの国々には可能性を秘めた若者をはじめ多くのリソースが存在し、そこにこれまで我々が青年経済人として培ってきたアントレプレナーシップが加われば、その国の産業発展や雇用創出だけにはとどまらず、国際社会における日本の存在感は高まるであろう。これまでの経験を活かし、あらゆる国際舞台で貢献できるＪＡＹＣＥＥとして活躍の場を広げていきたい。

確かに政府間では解決に取り組まなくてはならない課題や問題が山積している。日本の繁栄を考えると自分の価値観を押し付けるのではなく、互いに誠意をもって相手を理解することが民間外交では重要なことであり、決して個別の問題で全体の利益を見失ってはいけない。相手の目で見て、そして相手の耳で聞く。そんな日本の心を忘れずに相互の理解を深めていきたい。その心の共有こそが、世界を恒久的な平和に導いてくれることを信じてやまない。

【リーディングＮＯＭとしての責任】

ＪＣは青年による組織らしく爽やかな風が吹く組織であることを願いたい。世界中

で苦しむ人々のために、互いに助け合い、経験を分かち合う、そんな国際的なネットワークである。確かに世界には不平等な環境下で生活する人々は多く、それを乗り越えようとする経験の度合いに差があることも仕方がない。しかし、そこに国家として人として上下や優劣の意識があるのであれば、我々は正面を切ってその意識の解決に向き合わなければならない。

戦後日本において、どの組織も国際社会で明確な立ち位置がない中、１９５１年５月にカナダモントリオールで開催された第６回ＪＣＩ ＷＯＲＬＤ ＣＯＮＧＲＥＳＳでフィリピン出身のラモン・デル・ロザリオＪＣＩ会頭が、ＪＣには国境も民族も関係ないと、ＪＣＩにかつての敵国であった日本のＪＣ代表団を受け入れたことは有名な話であるが、この精神と我々の先輩方の国際社会への復帰に対する情熱があったからこそ、いまの我々が存在することに感謝しなければならない。つまり６３年が経ったいま、ＪＣＩのリーディングＮＯＭまで成長させて頂いた日本青年会議所が、この恩を未来へ送るべく、ＪＣＩを通じて国際社会へ貢献していくことは何も特別なことではなく自然な行ないなのである。また世界で殆ど類を見ないが、我々のバッジには国連マークが刻み込まれており、近年ＪＣＩは、その国連が掲げる国連ミレニアム開発目標（ＵＮ ＭＤＧｓ）に全面的に協調そして協力を行なっている。この目標期限は２０１５年で最終年度を迎えるが、運動の意義や目的を絶やさぬよう世代を問わず身近にできる国際貢献ＪＣＩ ＮＯＴＨＩＮＧ ＢＵＴ ＮＥＴＳキャンペーンを草の根運動として展開し、市民一人ひとりの一歩が国際社会に大きく変革をもたらすことを伝えていきたい。併せて日本の小中学生には、国連の施設や国際貢献の活動内容について肌で感じる機会を提供し、国際社会の一員である意識醸成を図ると共に、その彼らの成長を応援する、そんな社会をつくっていきたい。

世界には何の罪もない子供たちが笑顔を失っている事実がある。しかし、人は不平等な環境にあっても、小さな一歩であれば必ず踏み出すことはできる。６３年前、我々も優しく手を差しのべられたように、温かい心をもって貢献することが国際社会から本当の信頼を得ることにつながるのである。

【日本のファンづくり】

悠久の歴史を誇る自然国家日本に住み暮らす人々は、生きることに誠実に自らの価値観を磨き上げてきた。そんな価値観で溢れた日本は、世界に誇りたくなるくらいの美しい共同体をつくり上げている。明治中期その日本を訪れたパトリック・ラフカディオ・ハーンやイザベラ・ルーシー・バードたちは、日本の心に触れ、感動し、ファンになっていった。

２０１５年度も国内外問わず、日本の心をもって日本のファンづくりを行なってい

く。心に触れての感動があればこそ、必ずやファンになってくれるし、これは未来に大きな幸福をもたらすに違いない。これが民間だから自由で楽しくできる外交なのである。また、一人の青年の核心から始まったＪＣ運動は、いよいよ１００周年を迎える。この記念すべき年にＪＣＩ ＷＯＲＬＤ ＣＯＮＧＲＥＳＳ金沢大会が国内で開催される。日本らしさが随所にある都市で開催されるこの大会は、過去日本を訪れた偉人たちと同様に、世界中のＪＡＹＣＥＥに日本の心という感動体験を与えるだろう。そして、各地会員会議所が大切に育んできた日本の心を、参加者全員で共有できる機会にしたいと思う。

この日本のファンづくりは、改めて我々に日本の底知れぬ力を知らしめてくれる。日本人としての誇りを取り戻すこと。これが何事にも代えがたい国益なのである。

自分たちの地域を見つめ、改革する
地域の文化と現代の文明を組み合わせる
地域再興の先頭に立つのは青年だ

【イノベーションを起こす思考をもつ】

イノベーションを起こす人は、既存のアイデアを組み合わせることができる人である。 決してゼロからつくり出すことが求められているわけではない。イノベーションは「何故こうなっているのか」、「どこに問題があるのか」といった核心の追求から生まれるのである。

いまの日本は戦前戦中とは違い、電気、水道、電話そして教育機関などの社会基盤は整備され、最低限の生活には困らないほどの環境が整った。このような状況下だからこそ､それぞれの地方の特色を活かした発展を考えるべきであり､そこに住まう人々の意識もそのように変化してくるであろう。地方のことは地方に住まう人々が一番知っている。いつまでも国家に頼る中央集権型ではなく、地方分権等自立自活して発展する地域経営主義で地域再興を目指そうではないか。地方で人々が大切に守り続けてきた文化にフォーカスして魅力の発見と再興を図っていきたい。そしてその活動を通じて、日本のこれからの文明の在り方について考えていこう。

【制度改革、目的税を活用した地域再興計画】

アベノミクス効果や東京オリンピック効果で日本全体の景気は上向き傾向であるが、

地方に目を向けると、まだ何か慢性的な疾患があるようで、自覚症状はあるが、その具体的な病名や治療方法がわからない状態である。地方に再び日が昇るには、機能不全に近い基礎自治体に大きくメスを入れ、それぞれ独自に有する唯一無二の文化や自然、伝統や歴史等の価値をいま一度再認識し、十分な機能を発揮できるように施術する必要がある。

現在の日本は、かつての国家主導による国土の均衡ある発展を目指してきた「地域開発」の時代から、地域が自らの智慧と資源を活用することが求められる「地域経営」の時代への過渡期にある。これは付加価値の高い地域特有の文化や自然、伝統や歴史などの「地域資源」を用い、地域に住まい、地域を愛する「地域人材」が「地域経営」を行なうということである。そのためにはまず、内閣官房に設置された地域活性化統合本部会合による「構造改革特区制度」並びに「地域再生計画」を大いに活用すべきである。前者は、一定区域内における規制緩和を通じて地域の活性化を促した点で、地方分権等自立自活した後の地域のあるべき姿を先取りする社会実験の役割を果たし、後者は、「地域が自ら考え、行動する。国はこれを支援する。」といった国の地域政策だからである。また、地方分権一括法により可能となった「法定外目的税」も存分に活用し、いかに地域の資源を高付加価値なものとするか、戦略的な経営者視点を持ちながら各地会員会議所と共にこの取り組みを進めていきたい。

地方がこのまま慢性的な不況で、殺伐とした地域と成り下がるか、それとも先駆者として課題を乗り越え、再興を遂げた地域となり脚光を浴びるのか、それは一概に政治家や官僚ばかりの裁量や責任ではなく、我々青年の肩にかかっているのである。

【再び日本が注目される日】

２０１３年９月８日、２０２０年夏季オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市を決める国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）総会がブエノスアイレスで開かれ、東京が選ばれた。１９６４年夏季五輪が東京で開催されて以来５６年ぶりに、世界中の若者に夢と希望を与える祭典がやってくるのである。

この夏季五輪開催で、未来を生きる人のためにどれくらいの遺産を残せるのか、これが日本の再興に深く関わってくる。施設などの有形の遺産に加え、ボランティアやスポーツを通じたライフスタイルなど無形の遺産は、今後日本に新たな光を照らしてくれるだろう。また過去もそうであったように、世界中の人々は日本の底知れぬ力を目の当たりにすることになる。世界中から訪れるオリンピックファンが日本のファンになる。そんな中期戦略を打ち出していきたい。

【モノ消費からコト消費へ】

地域活性化の大きな基盤は、定住促進と交流人口拡大の二つである。このうち交流人口拡大は、どの地方もそのための潜在的力を秘めている。観光立国推進基本法に基づき、２０１２年３月３０日に閣議決定した「観光立国推進基本計画」の効果もあり、２０１３年、初めて外国人観光客の数が１，０００万人を超え、今後間違いなく日本に感動体験を求めて訪れる観光客が増えることが予想される。

また、２０世紀末頃から世界各国で日本ブームが静かに高まりつつある。無形文化財として２０１３年に登録された「和食」、食器や伝統工芸品などの職人技、アニメやマンガのクールジャパン、おもてなしなどのホスピタリティは、興味や物珍しさの域を超え、日本人の日常の生活が世界中の人々から好感されていることを示している。その中で、世界の人々が最初に来て驚くのが、未体験の日本人の美意識との接触である。歴史に裏付けされた技と想像力、斬新なアイデア、繊細な気遣いなど、そうした人々の新鮮な驚きによって浸透してきたのがこんにちの日本ブームだ。その最大の特徴は「五感に触れての感動」を通して、「心に触れての感動」に至る感動体験の深まりである。これら日本を代表する文化は、地方を中心とした地域経営の最大の武器でもある。しかし、これまでのような基礎自治体単位でのまちづくりでは、モノ消費が主流となり、コト消費に対応することが困難である。つまり、この取り組みだけでは産業発展、雇用創出には限界があり、地方分権等自立自活した地域をつくり出す一歩を踏み出せない。ところで、世界では滞在型観光業は自動車産業より大きいというが、ＪＣのネットワークを駆使することで、そこに地域経営の活路がある。それは潜在的観光客に合わせた観光目的地を、地域に住まう人々と日本に在学する感性豊かな留学生が共に企画し、滞在型観光をつくるという戦略である。これまで各地で磨き上げてきた「地域のたから」をはじめ、慣習やサブカルチャー、近代工業や職人の技などにもフォーカスを当てたコト消費を主流とする感動体験が、地域再興を現実のものとしてくれるのである。また、これら共通の財産をもつ地域は決してライバルではなく、中期的ビジョンを掲げ、世界を舞台に戦える友でもあるのだ。

そこに住まう人々が豊かでないと、その地に訪れる人は現れない。地域経営による日本再興の解は、我々の日常生活の中に存在するのである。

【音楽とスポーツの力によるまちづくり】

音楽やスポーツは私たちに感動や勇気を与えてくれる。この心に触れる感動体験は、言葉では表現できない力があり、どんな有能な識者が持論を訴えようとも、勝ることはできない。そんな音楽やスポーツを通じて生涯忘れられない体験をしている子供たちで溢れるまちの姿は、住まう人々にとって心の拠り所となるのである。

２０１４年、東日本大震災からの真の復興に向けた４本の柱からなる新たな指針が策定された。この中の１本である「未来へつなぐプロジェクト～音楽のちから～」で発表された「未来へつなぐメッセージ」は、復興のシンボルとして被災地と被災者に心を寄せ、真の復興を成し遂げるためにつくられた曲である。心に深く傷を負った子供たちの言葉や表情を感じ、その思いを歌詞やメロディーにのせたこの曲は、被災地そして日本全体に力強く夢や希望を与えるだろう。そして、この曲を合唱する子供たちの姿が全国に広がれば、２０２０年夏季五輪開催までに、必ずや被災地に明るい兆しが見えてくるに違いない。

また、一般社団法人日本サッカー名蹴会と日本青年会議所は２０１４年からＪＣカップをスタートする。サッカーは人生に似ていると言われ、人々を惹きつける魅力がある。人生は、勢いがあり押す時もあれば、勢いを失い押される時もある。人生の師匠は横で励ますだけでゲームには参加しない。まさにサッカーは人生を観客に見せているかのようだ。名蹴会が掲げるグッドルーザーの精神を身に纏った子供たちが全国から集まる大会は、地域の人々に夢や希望を届けてくれるに違いなく、この大会を地域全体で盛り上げる、そんな社会をつくりたい。そして、大会に参加した子供たちの中から、２０２０年夏季五輪、日の丸を背負う選手が誕生することを心から願う。

世界共通の文化がある
未来を担う同志もいる
だからＪＣの可能性は無限にあるのだ

【ＪＡＹＣＥＥのものさしとは】

どこの国や地域でもＪＣの活動は、ＪＣＩＣＲＥＥＤ、ＪＣＩＭＩＳＳＩＯＮ、ＪＣＩＶＩＳＩＯＮの唱和から始まる。これはＪＡＹＣＥＥがＪＣ運動の基盤となる同じ綱領や使命を確認するものであり、我々もこれを大切に守り続けてきた。

世界でもトップの組織力を誇る青年の団体を、一世紀に亘り維持そして発展させてきた背景には、このセレモニーをはじめとしたＪＣの決まり事を大切にする文化があったからであることは、歴史が語っている。また、そのことは同じ志をもつメンバーが国内はもとより、世界中に多く存在することを教えてくれる。全国には６９６会員会議所が存在し、日々それぞれの地域の問題や課題と誠実に向き合い運動を展開している。その基盤にあるのがＪＣプロトコルともいえる各地で連綿と受け継がれてきた所謂「決め事」である。全国の会員会議所にとってメンバーの減少や、在籍年数が少

ないメンバーが多くなってきているいま、ＪＣがＪＣであり続けるために、「決め事」を当たり前に行なえる文化を支える取り組みをＬＯＭ支援として進めていきたい。

全国には同じ志で歩みを進める仲間が３５，０００名いる。これは地域そして日本やがては世界により良い変化を及ぼす大きな可能性そのものであることに他ならない。ＪＣの一体感や同一性を確認できる機会を会員会議所と共有することで、同じ時代を生きる青年として絵を描いていきたい。そして、共に光り輝くＪＡＹＣＥＥであり続けようではないか。

【同志が集う組織】

青年会議所という組織が市民から見て魅力的な組織であるのか。同志が集う組織であり続けるためには、この議論を避けては通れない。これは決して世間への迎合ではなく、我々の存在が市民にとってリーダーそして希望となっているのかを意味している。

もし、我々がビジョンを掲げ、事業を磨き、市民意識変革の運動を怠るようであれば、一体誰が時間や費用を掛けてまで青年会議所に所属する意義を見出すのであろうか。同志が集うか否かは、我々が地域の抱えている課題や問題を的確に捉えるだけの知識や見識を持ち合わせ、その解決に向けて大きくメスを入れる強い意志と実行力を持ち合わせているかにかかっているのである。ここに組織の継続・発展の核心がある。確かに組織である以上、数値的発展は質的向上をもたらすことは事実である。しかしながら、そのことに捉われすぎて、本来青年会議所のすべき学び舎としての日々の研鑽と事業をもって同志を増やすことを忘れてはいけないのである。

近年の６９６会員会議所の会員拡大の功績には深い敬意を表したい。全盛期には６０，０００名を超えるメンバー数を誇った日本の青年会議所も、バブル崩壊、リーマンショックなどの経済不況の煽りを受け、全国的に会員数が減少の一途であったが、ここにきて増加の兆しが見えてきたのは大きな成果である。２０１５年度も地域の特性を理解するリーダーであるブロック協議会会長を中心に、会員拡大・資質向上研修を実施していくと共に、理事長が描く事業に対しても側面的支援を行なっていきたい。

日本の底知れぬ力の源泉は地域にある。基礎自治体を支える主権者である市民を動かすのは、６９６会員会議所がつくる尊い運動である。我々は、地域そして日本の再興に向けて、その支援を惜しんではならない。

【市民と青年会議所をつなぐ】

ソーシャルメディアサービス等の利用者急増により、市民と接する情報媒体や情報

量が飛躍的に増大している。その環境下では、単に一方的な情報発信だけでは、受け手に対して発信者側の意図が伝わりにくい時代となっている。これからの情報発信は「市民に何を伝えたいのか」ではなく、「市民をどのようにしたいのか」という発想への転換と、その目標に向けてのアプローチを設計する時代が到来している。

全国には先駆的な事例として各地に伝えたい輝かしい事業を行なっている青年会議所が数多く存在している。またそれ以外にも、国内外問わず、地域の発展のために直向きに汗を流す若者も数多くいることにも敬意を表したい。その周りには、同志のみならず市民や行政が存在し、互いに助け合い、未来という絵を描いている。問題や課題と誠実に向き合い生き抜く姿、そしてリーダーとして自信に満ち溢れた目が、その地域の希望となっているのである。これらの功績に対して、我々が主体となり日本全体で賞賛し応援できる環境、つまり市民と青年会議所をつなぐ最適な設計図をコミュニケーションデザインとしてつくっていきたい。

一人から始まった運動が、地域そして日本やがては世界を変革する。そんな可能性に市民が気づくとき、彼らもまた夢を描く青年や若者と共に、その実現に向けて一歩を踏み出すのである。

また２０１４年、新・日本風景論を発表した。日本には、四季折々の旬の味覚や、実用から芸術として鑑賞される工芸、思いやりと奥ゆかしさが表れたしぐさ、美しさと厳しさの中で育まれた雄大な自然など、まだ我々が知らない日本らしさが多く存在する。併せて、世界から注目を浴びるアニメやマンガ、コスプレなどのクールジャパンも現代を代表する日本らしさである。これら日本の底知れぬ力を後世のみならず世界に伝えるために、本書籍の改訂を進めていきたい。

評価を恐れず果敢に挑む
壮快さと秩序
両立を適えるのはＪＡＹＣＥＥの使命である

【青年会議所という組織】

青年会議所という組織は、各分野の第一線で活躍する異なった職種や地位の若者で構成されている。しかしながら、入会すればそのような背景は全く関係なく、公平に議論の場が与えられ、鎬を削りながら論を交わし、自他ともに修練そして成長する、そんな青年らしい潔さで満たされた道場でもある。その姿がこの組織の尊さであり強さでもあるのだ。

そのような青年で構成される青年会議所は、全国ほぼすべての地域に存在する。また地域を見渡すと、青年会議所の精神を身に纏った先輩も、各界で充実しており、我々の組織を支えてくれている。そのような状況下では、市民、行政、企業などとの関わりが深くなるのは必然であり、組織の公益性や透明性への関心度が高まるのも自然の摂理である。しかし、我々が社会からの評価を過度に意識するようでは、運動の壮快さを欠いてしまうのも事実である。つまり青年である特権を活かし、時代を切り拓く先駆者として果敢に挑む姿勢を持ち続けるためにも、この組織を支える運営の担いは大きいのである。運動と運営。この両輪がいつも互いに相乗し合う関係にあるからこそ、運動の壮快さと運営の秩序が両立する盤石な運動体を形成することが可能となるのである。

日本青年会議所の組織運営の秩序とは、公益法人として内閣府が定めた要件を始め、知的財産権や肖像権保護などの法令の要素と、形式を重んじた厳格な諸会議運営を始め、費用対効果や相対支出が適合した財政出動などのＪＣプロトコルの要素から成り立っている。これらすべての要素は個別で管理されるのではなく、運動の質を飛躍的に向上させるためにも、有機的なつながりをもって血液が循環していることが求められている。この循環が停滞すると、たとえ事業予算やアイデアがあろうとも、最高のパフォーマンスを発揮する運動体を形成することはできない。即ち我々は「何をする組織であるのか」を問う前に、「どのような組織なのか」が問われており、まずは人間でいう人格を形成しなければならないのである。

運営は運動を側面的に支える立場であるからこそ、誰よりも広い視野と長期的な展望をもった同志でなければならない。そして、そこには共により良い運動をつくるといった日本の心が欠かせないのである。

これからの半生を賭けて絵を描こう
ＪＡＹＣＥＥの持つ潔さと誠実さで
美しい未来が訪れるように

【誠実であるということ】

ＪＣに入会する転機が訪れる。当時、金沢に所縁がない私であったが、先輩の配慮もあり、今風で言うと入会規程の解釈の変更により晴れて一員となることができた。そして、これまでこの組織の中で様々なタイプのリーダーと巡り合えている。聡明で戦略的な人。表現が豊かで人を魅了する人。無口であるが実行力がある人。朝方まで

熱く語り続ける人もある意味リーダーであった。ただ、そのリーダーたちに共通して言えることは、物事に対し誠実であるということである。この誠実さとは、人間の根源に触れる部分であるが故に誰からか教わるものではない。自らの日々の行動によって自然と身に付くものである。だからこそ、誠実に向き合っている人の姿は美しく、人々を惹き付ける魅力となっている。ＪＣという共同体に対し誠実なリーダーが、私にとって真のリーダーであった。

志を立て自分を振り返るため、故郷を訪れてみた。昨日のように記憶は甦ってくるが、少年期大きく感じたまちは、なんだか少し小さくなったような気がした。文化は心の拠り所であり、文明は人々の希望となる。そんな理想をもってＪＣをやってきた私であるが、もっと国や地域に対し誠実さが必要なのであろうと感じた。

『人生は栄枯盛衰であり儚く、誰でも必ず衰える時が来る。その時その相手に、優しく手を差しのべ、歩み寄れる人間こそが、本当の信頼を得ることができる。』

そのようなことを教わったことがある。これは人生だけではなく、国や地域に対しても言えることなのかもしれない。

あなたを待つ人は必ずいる。
一度しかない人生。
リスクヘッジなＪＣはやめて、
もし、あなたが決めたなら、それにすべてを賭けようではないか。
この潔い思い切りこそ青年らしい。
失敗してもいい。
それどころか、どうせ失敗するなら派手に失敗しようではないか。
全てが成果であり、だからＪＣは面白い。
そこにＪＡＹＣＥＥがいる限り、
底知れぬ力をもつ日本は必ず再興できる。
必ずである。

すべては未来を生きる人のために。
先駆けよう、ＪＡＹＣＥＥ。
美しく先駆けよう。

公益社団法人日本青年会議所
２０１５年度　基本資料

基本計画

（基本理念・基本方針）

基本理念

文化と文明が生み出す

「底知れぬ力」による日本再興

基本方針

１．成熟したナショナリズムによる国民意識の確立

２．心が通う民間外交による国際社会への貢献

３．戦略的な地域経営による地域の再興

４．ＪＣプロトコルを基盤とした包括的なＬＯＭ支援

５．壮快な運動を支える秩序ある組織運営

公益社団法人日本青年会議所
２０１５年度　基本資料
事業計画

[1] 日本青年会議所が主催し、各地会員会議所に重点的に依頼する運動・事業

１．ＪＣＩ　ＮＯＴＨＩＮＧ　ＢＵＴ　ＮＥＴＳキャンペーンの推進
２．統一地方選挙における公開討論会の推進
３．新・日本風景論の共創による改訂及び推進

[2] 日本青年会議所が主催し、各地会員会議所またはＪＣＩや各国青年会議所に対して、
参加や参画など協力を依頼して行う事業

１．京都会議　【　１月】
２．サマーコンファレンス（横浜）　【　７月】
３．全国大会東北八戸大会　【　９月】
４．国際アカデミー
５．人間力大賞
６．褒賞
７．各種視察団・使節団の派遣
８．国際協力

[3] ＪＣＩが主催し、日本青年会議所が連携して行う運動・事業

１．ＪＣＩ　ＡＳＰＡＣ（マレーシア/コタキナバル）　【　６月】
２．ＪＣＩ　グローバルパートナーシップサミット　【　７月】
３．ＪＣＩ　ＷＯＲＬＤ　ＣＯＮＧＲＥＳＳ（日本/金沢）　【１１月】
４．ＪＣＩ　アワードへの申請　【６月・１１月】
５．ＪＣＩ　ＮＯＴＨＩＮＧ　ＢＵＴ　ＮＥＴＳキャンペーンの推進　【通年】

[4]日本青年会議所が行う運動・事業

近畿地区協議会基本方針

魅力溢れる誇り高き近畿の実現

近畿地区担当常任理事　　竹本　聡

かつては日本の都として、また歴史的文化遺産を数多く有し、アジアの架け橋として地域を発展させてきた近畿は、それぞれの特性を活かしたまちづくりで地域を活性化させています。さらに人や物が集まる活力漲る豊かな地域とするには、地域資源の有効活用をはじめアジア諸国のハブ的地域として、国内外に向け強い発信力と影響力を発揮する地域経 営から､独自の文化と高い志をもつ人々が集い魅力溢れる近畿を実現する必要があります。

まずは、地域から日本の未来を切り拓くために、本会の事業・運動を推進します。そして、未来を担う子どもたちを育むために、地域の大人とともに現地に赴き本会や地区のプログラムを土曜事業等で活用し、地域社会を主体とした道徳心を育む運動を推進します。さらに、国内外において活躍できる地域人材を育成するために、民間外交を兼ねた地域経済の発展につながるＧＴＳを開催し、地域経済の活力を取り戻します。また、豊かな心をもつ人々が集う地域を確立するために、地域資源を調査・発掘し、地域経営主義によるイノベーションを起こす機会を提供します｡そして､魅力溢れる地域や人を輝かせるために、それぞれの活動を称賛するだけでなく各々の活動情報を共有できる場として近畿地区版人間力大賞を実施し、社会に夢や希望を与え影響力を発揮する人を発掘します。さらに、人や物が集まる豊かな未来をそこに住み暮らす人々と共に描くために、運動の集大成を発信する近畿地区大会を開催し、地域資源の発展や誇れる地域の構築につなげます。また、真の復興のために、本会と連携し、被災地と被災者に心を寄せる復興支援活動を行います。

何事にも誠実に向き合い行動する私たちが、愛する地域の未来を切り拓きグローバルに活躍する先駆者として、戦略的な経営者視点を通じて、さらに夢や希望溢れる豊かになった地域から､輝かしい未来を語れる魅力溢れる誇り高き近畿を実現し､日本を再興します。

＜事業計画＞

１．本会の事業・運動の推進
２．地域教育による道徳心を育む運動の推進
３．ＧＴＳ（グローバルトレーニングスクール）の実施
４．地域資源を活かした地域経営の調査・推進
５．近畿地区版人間力大賞の実施
６．近畿地区大会草津大会の開催
７．復興支援活動の実施
８．【地区連】「未来へつなぐプロジェクト～音楽のちから～」の推進
９．【地区連】ＪＣカップＵ-11少年少女サッカー全国大会の予選会の実施

京都ブロック協議会 事業計画

文化と文明がおりなす誇り高き京都の実現

京都ブロック協議会 会長 上田　公平

古より日本の都として歴史や文化を継承してきた京都は、北には日本海を擁し、中央には丹波高地が広がり、南は茶畑が広がる田園地帯と豊かな恵みある自然と悠久の歴史を強みに世界有数の国際都市として繁栄してきました。国内外から注目される京都のさらなる発展のためには、住み暮らす人々が美しい故郷への誇りや高き志をもち、特色ある地域資源が磨かれた文化と文明が幾重にも結び合わされた奥深い誇り高き京都の実現が必要です。

まずは、地域から日本の未来を切り拓くために、本会の事業・運動を推進します。そして、有権者による政治参画の意識向上のために、公開討論会の推進や「ｅ－みらせん」を運用し、政策本位の政治選択を浸透させていきます。さらに、主権者である国民の意識醸成のために、国民参加型憲法事業を実施し、憲法論議を喚起します。また、地域のリーダーとなる人材育成のために、会員拡大の推進や資質向上事業を開催し、各地会員会議所運動を支援します。そして、国際社会において活躍できる人材を育成するために、アジア諸国の人々との相互理解を育むと共に京都ならではの魅力を発信する国際交流事業を実施し、心が通う民間外交を推進します。さらに、地域への誇りを高めるために、地域資源による魅力溢れるブロック大会を開催し、持続的に発展する未来の京都を描きます。また、自立自活した地域を創造するために、地域経営的観点による地域活性化フォーラムを開催し、まちを誇りに思う府民意識を醸成します。そして、有事における防災ネットワークを強化するために、社会福祉協議会と連携し、広域且つ迅速に対応できる組織づくりをします。

誠実さと潔さをもち果敢に挑戦する先駆者としての我々が、京都で住み暮らしていることを誇りに、希望ある未来を描く府民と共に、明るさと豊かさが満ち溢れ、地域の底知れぬ力が呼び覚まされた、文化と文明がおりなす誇り高き京都を実現し、日本を再興します。

＜事業計画＞

１．本会の事業・運動の推進

２．統一地方選挙における公開討論会の推進

３．拡大支援活動・資質向上事業の実施

４．心が通う民間外交による国際交流事業の実施

５．京都を誇り思える府民意識の醸成関するフォーラムの開催

６．京都ブロック大会の実施

７．【ブロ連】国民参加型の憲法事業による意識喚起

８．【ブロ連】ＵＮ　ＭＤＧｓ達成に向けた認知向上プログラムの推進

９．【ブロ連】「未来へつなぐプロジェクト～音楽のちから～」の推進

１０．【ブロ連】ＪＣカップ　Ｕ－１１少年少女サッカー全国大会の予選大会の実施

２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所
理事長所信

ＳＴＡＹ　ＤＲＥＡＭ

－大志を抱き、次代へと誘(いざな)う燈火となれ－

理 事 長　　三 宅 尚 嗣

はじめに

昭和２０年に終戦を迎えた我が国日本に於ける青年会議所運動は、戦後の荒廃の中から経済再建の使命に燃えた祖国を愛する青年の情熱が発端となり、「新日本の再建は､我々青年の仕事である。改めて述べるまでもなく、今日の日本の実情は極めて苦難に満ちている」という祖国再建への使命感を共にした同志が集い､青年会議所運動の灯りが燈されました。やがて、その情熱の波紋は各地に広がりを見せ始める中、当時の乙訓の地は時代変革の移り変わりもめまぐるしく､極度の合理化志向の社会にあって青年達は住民との連携や協調、あるいは共存共栄の精神を置き去りに、地域社会への情熱が離散し、まとまりある郷土育成の力が欠如してきた事は見逃さざる事実でありました。そんな状況に危機感を持った当時の若者が「今こそ我々は郷土愛を再認識し、自らの研鑽を通じて、友情を深め、明るい豊かな社会の建設に貢献せねばならない」という志の下に、乙訓青年会議所は１９７９年に全国で６５９番目の青年会議所として誕生しました。まさしく「混沌という未知の可能性を切り拓く」変革の能動者であります。現実としてはいつの時代、どこの社会にも混沌はあり、それを切り拓き、新たな秩序を作り出す事が出来るのが我々青年です。とりわけ今の日本社会にこそ、その混沌をどのように切り拓いて行くかが問題の本質であり、青年会議所の真価が問われています。混沌とは混迷とは異なり、マイナスの状況を示すものではなく、それ自体は正負どちらにも展開しうるエネルギーが充満したニュートラルな状態を表すものです。先行き不安という悲観的な捉え方ではなく、「未知の可能性」として前向きに捉え、努力を惜しまず何事にも諦めない信念を持ち、立ち向かう者こそがＪＡＹＣＥＥとしての姿です。

ＳＴＡＹ　ＤＲＥＡＭ

本年度はスローガン「ＳＴＡＹ　ＤＲＥＡＭ」を掲げ、－大志を抱き、次代へと誘(いざな)う燈火となれ－をテーマに青年会議所運動を展開して参ります。「ＳＴＡＹ　ＤＲＥＡＭ」には夢を持ち続け、目的に向かって諦める事なく邁進しようという想いが込められています。人は目的を定めなければゴールが見えず、時には疲れ果て挫折をしてしまいます。目的とはこうなりたいという一つの未来の姿です。得たい結果が目的であれば、それまでの過程の中で必要になってくるのが夢や情熱であり、この夢や情熱が人を動かし、人生を彩るものと私は考えます。これは個人だけに当てはまるのではなく、組織として捉えた場合も同じです。「明るい豊かな社会」の実現を掲げる我々の目的を達成する為には、まず大きな志と夢を持ち続け、その実現に向けて情熱溢れる行動を起こして行く事が重要です。今一度、我々自身が夢を持つ事の大切さを認識し、ファイナルアクションプラン「地域と共に夢と誇りを育む乙訓(まち)創り」を目的達成の為の重要なプロセスと捉え、私達が夢と誇りを持ち、努力を惜しまず、諦める事なく情熱を持って歩み続ける必要があります。そして新たな事へのチャレンジを楽しみつつも常に先見性を持ち、「明るい豊かな社会」の実現に向け、我々一人ひとりが変革の能動者とならなければなりません。

市民による主体的、継続的なまちづくりへの礎を築き地域力の向上を目指そう

現在、地域社会を取り巻く環境や住民のライフスタイル、また価値観の変化などに伴って地域ニーズや課題が多様化し、的確に対応して行く為には地域社会の中でも主体的な取り組みが欠かせなくなってきています。青年会議所の目的は「明るい豊かな社会」の実現であり、乙訓青年会議所では一つの到達点として２０２０年ビジョン「地球市民意識あふれる乙訓(まち)」を掲げ、先輩諸兄は「自立、共生、創造」を柱として活動をされて来られました。昨年度には創立３５周年を迎える中でファイナルアクションプラン「地域と共に夢と誇りを育む乙訓(まち)創り」を提言させて頂き、「私たちが夢と誇りを持とう（自立）」、「私たちが夢を与えられる人になろう（共生）」、「私たちが誇りを持てるまちにしよう（創造）」と定義付けを行いました。これから先のまちづくりの方向性として乙訓(まち)に住まう市民一人ひとりが夢と誇りを持てる乙訓(まち)を創造する為にも、本年度はこれまでのまちづくり事業を振り返りつつ昨年度に開催された３５周年記念事業の検証も踏まえ、早期に市民、地域諸団体、行政の方々と「自分たちの乙訓(まち)の未来を真剣に考える」意見交換の場を創出します。その上で地域力の向上に繋がる事業の実施を行い主体的、継続的なまちづくりへの礎を築きます。また重要な政治参加の機会である選挙においては、貴重な国民の権利であるにも係わらず投票率は低下傾向を辿っています。この現状を打破する為にも、まずは政治への興味を喚起し、自分達のまちの未来を真摯に考える機会を提供する事が市民主導型社会の実現に一歩でも近づくと考えます。

「明るい豊かな社会」の実現に向かって行動し、地域社会の問題を青年の英知と勇気と情熱をもって解決する事で青年会議所の価値は生み出されます。その中で、地域の負託と信頼に応えると共に、乙訓青年会議所が未来永劫発展し続けて行く為にも、脈々と受け継がれて来た３５年間の歩みや歴史を再認識し、その重みを知り行動する事が重要です。そして、市民による主体的、継続的なまちづくりを実現する為にも我々の運動、また活動に

対して広く周知し市民の方々に「必要とされる団体」「信頼される団体」として広く親しまれる事が必要です。その為には公益社団法人を掲げ活動する上で「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの」を念頭に置き、我々の活動をより迅速かつ効果的に伝播する手段として広報誌やホームページ、時代に即したコミュニケーションツールを活用します。これらを有効に活用する事でメンバー間はもちろん、地域諸団体や広く市民に対して本質の見える有益な情報を発信する事が可能となり、相互理解を促進する事が出来ます。広報活動を充実させる事が、より力強い信頼関係で結ばれたネットワークの構築に繋がり、即ち地域力の向上に向けた意識改革の一助になると考えます。青年会議所には各種事業への参加や、出向を通して多くの学びの機会が平等に存在します。一人でも多くのメンバーに様々な事業へ参加して頂く為にも、各種事業の内容や出向者からの情報をしっかりと共有する事が重要です。また出向を通して得た多くの学びを持ち帰り実践する事で、ＬＯＭの活性化に繋がると考えます。さらにメンバーが事業の趣旨を理解した上で参加し、また出向者に対して積極的に協力する姿勢を持つ事が出来れば、自ずと組織の底上げに繋がり、ひいては力強く元気な乙訓青年会議所が未来永劫発展し続ける事に繋がると考えます。

未来を担う乙訓（まち）の宝と、次代を担う乙訓（まち）のリーダーを育てよう

近年、子ども達が近所の公園や空き地、小学校の校庭や道端で遊んでいる姿を見かけなくなりました。私自身が幼少期に勉学よりも遊ぶ事に一生懸命になっていた事もこの虚しさを覚える一つの要因かもしれません。しかし、あまりにも見かけなくなったのは一言に寂しい限りです。一体今の子ども達はどこで何をしているのでしょうか。我々が育った幼少期は、近隣に住まう地域の大人がいつも見守り役であり見知らぬ大人によく怒られたものでした。その中で、やってはいけない事、これをやれば怒られるという人としての道、即ち道徳や倫理観を養ってきたように思います。今の子ども達も遊んでいないわけではありません。しかし、遊びに対して集団的から１人でも遊べるようなツールが子ども達の遊びに変化を与え、その結果コミュニケーションのあり方までも変えてしまった事は否めません。私は子ども達にとって自由時間の宝庫であった放課後や休日こそが、子ども達にとって知恵や発想を育み、コミュニケーションを図る重要な場であったと考えます。そんな当たり前であった事が今見過ごされてはいないでしょうか。またメディアを通して日々報道される目を塞ぎたくなる事件に於いては、事件を起こした子ども達が悪いのではなく、子どもを育てる親や周りの大人も含めた我々の道徳心の欠如や、子ども達とのコミュニケーション不足が大きな原因だと考えます。今の地域に必要なのは我々が親として、そして地域の大人としてのあり方や子ども達との関わり方を見直し、地域の大人としての道徳心を今一度養うと共に、他人の子どもも我が子と同じ、褒める時は思いっきり褒め、叱る時も思いっきり叱る。そんな一昔前の近所の怖くもあり、優しくもあった「おっちゃん」、「おばちゃん」が今の地域に必要なのです。この日本という国の未来を担い、我々が住まう乙訓（まち）を牽引する地域の宝として、「明るい豊かな社会」の実現を託す希望として、大きな志と夢を持ち続ける事の重要性と、和の心と利他の精神を伝え、様々なコミュニケーションを通して真正面から向き合いましょう。

今、日本の景気は回復傾向にあると言われていますが、依然として先行きについては不

透明だと言えます。我々青年会議所メンバーは、「明るい豊かな社会」の実現を目的に運動を展開する青年経済人の集団です。我々は青年経済人として、また変革の能動者として経営者や地域のリーダーとしての模範となり社会的責任を果たす事が求められます。我々一人ひとりがリーダーとして今まで以上に自己を確立し、自ら率先して目の前の課題に向き合い、努力を惜しまず何事にも諦める事なく情熱を持ち行動する事が必要です。その中で、地域に必要なリーダーへと成長するには、まず自分自身の企業の存続と発展がなければあり得ません。その為に利潤の確保が必要となる事は言うまでもなく、自己の修練や研鑽を重ね自身の企業､経営基盤を強化し続けて行く事は企業基盤を確立するだけではなく、我が乙訓(まち)を活性化させより魅力的なまちの創造に繋がります。そして、企業の存在目的「利潤の確保や継続的発展」と同等に大切にして欲しいものがあります。それは、企業や自分に関わり合いのある人達です。その方々との信頼関係の構築も重要な要素であり、その中で経営者として、また地域のリーダーとしての自覚を持ち、品位の向上に努め行動へと移し地域に必要な人財となる事が我々の使命であります。我々は、大切な時間やお金を使い家族や社員の協力のもと青年会議所活動をさせて頂いています。楽しく愉快なだけでは何の意味もありません。今一度経営者として、また地域に必要とされる人財としての資質向上を図り、豊かな人間性を備え常に問題意識と確固たる使命感を持ち、主体的、積極的に行動出来る地域のリーダーとしての一歩を踏み出しましょう。

互いの魅力を高め合い、本物の絆を構築する強固な組織を目指そう

卒業という循環の仕組みを持つ青年会議所の組織に於いて、新たな人財の発掘と育成は我々の運動発信と未来の乙訓(まち)の発展の為に重要な要素のひとつです。現在、乙訓青年会議所は各地青年会議所の会員数が減少傾向にある中で会員数を維持しています。今後も会員数を維持し同志を増やして行く為にも時代に即した新たな試みを模索しつつ、過去の手法を継承し、さらに進化させＬＯＭメンバー全員の拡大に対する意識と魅力を一層高める事で組織的な会員拡大に繋がると確信します。私の考える人としての魅力とは、目的達成の為に夢を持ち続け諦める事無く邁進し続ける姿だと考えます。メンバー自身に魅力が備われば自然と周りに伝播し、その志高い姿こそが同志を得る事に繋がります。結果、近い将来には会員拡大委員会がなくとも次代を担う同志が増え続け、我々の目指す「明るい豊かな社会」の実現に繋がる大きな財産になると確信します。しかし、新たな会員が増える一方で在籍年数の短期化が浮き彫りになっているのも事実です。一定の会員数を確保し、限られた時間での効果的な人財育成は青年会議所運動の根幹に関わる重要な問題であり、我々一人ひとりが危機感を持ち中長期的な視野に立ってこの課題に向き合う必要があります。メンバー一人ひとりが「青年会議所メンバーの一員である事」を自覚し行動しなければ、相手に志高い姿や魅力を伝える事など出来ません。その為には長年に渡って青年会議所活動を行っているメンバーが青年会議所の活動の意義や、守らなければならないルールを日頃からしっかりと伝達しながらも、自分自身の行動や姿で示す必要があります。そして継続的に行われているＦＴセミナーにおいては、ある一定の形が構築されているのは事実ですが、新たな事にチャレンジする気概を持ちＦＭメンバーと担当委員会、さらに一部のメンバーが参加するだけの事業ではなく乙訓青年会議所の一つの事業として広い視野を

持ち事業展開を行う事が重要です。その中で、これから活動を共にする同志としてＬＯＭメンバー全員で若いメンバーの成長を見届けると共に、自身のＪＡＹＣＥＥとしての意識の高揚を図る事が自身と組織の魅力に繋がり、ひいては組織力の向上に繋がると確信します。今一度、自分自身が青年会議所の活動意義とＪＣバッジを付けている重みを認識し、確固たる信念を持ち「青年会議所とは」を周りに伝播出来る魅力あるＪＡＹＣＥＥとならねばなりません。

青年会議所は仲良しサークルではありません。しかし、青年会議所を通じて知り合った同志は一生の友となる事は事実です。それは「やる時には真剣にやり、当たり前の事を当たり前以上にやり遂げ成果をあげる。そして、遊ぶ時は真剣に遊ぶ」これが、乙訓青年会議所が周りからも元気で力強いと言われる最大の所以であります。今一度、この青年会議所運動と活動の意義をメンバー全員で意識の共有を図り、その中で「やる時はやる、遊ぶ時は思いっきり遊ぶ」のメリハリを持ち、相手の事を思いやり「ええもんはええ、あかんもんはあかん」と意見をぶつけ合い、夢を語り合い、何でも真剣に相談出来る真の絆を育もうではありませんか。そんな真の絆がさらに互いの魅力を高め、より一層力強く元気な乙訓青年会議所の組織力向上に繋がり、人生にも大いに役立つと考えます。そして、青年会議所活動を行う中で家族と社員の理解と協力の上で成り立っている事を忘れる事なく、感謝の気持ちをしっかりと相手に伝え、メンバーの志と活動内容を知って頂く機会を設け、我々の賛同者となって頂く事が必要です。そんな身近な人達からの理解がメンバーに多くの力を与え、必ず魅力ある元気で力強い乙訓青年会議所の源となる事を確信します。

公益で円滑な組織運営を妥協なく行おう

乙訓青年会議所には、３５年の間培われ進化を遂げてきた組織体系と組織を効率的に運用する為のシステムが存在します。その中で、我々青年会議所は「会議所」の名称の示す如く、会議を開催する機会が多い組織です。各種事業に於いての「計画、立案、結果検証、引継ぎ」はもちろんの事、全ては会議によって決まります。その中で、ロバート議事法を知っているといないとでは、青年会議所活動を積極的に行いながらも、もちろん自身の会社を発展させていかなければならない４０歳までの最も忙しい時期に時間の生産性に大差が出来てきます。青年会議所活動は暇のある人でなければ出席率は上がらないと考える事は全くの錯覚で、むしろ忙しい中でいかに効率よく仕事を処理し、自己の成長に結びつけるかに意義があります。そのような意味から効果的な会議を進める為のルールであるロバート議事法の習得は、青年会議所メンバーとして必須の条件です。このルールを組織の運営に携わるメンバーには、早い段階で理解をして頂く事がこれからの組織運営には重要な要素であると考えます。さらに、公益社団法人としての市民に開かれた公な団体である事を再認識すると共に、その運営方法や予算編成、執行に関するチェックや、コンプライアンスに対する意識を高め、信頼性のある管理体制を妥協なく徹底的に行う事が今の乙訓青年会議所に最も必要であります。今一度、公益で円滑な組織運営を行う為にも会議手法の習得と、守らなければならないルールを徹底し、厳しく妥協しない組織運営を目指しましょう。

むすびに

青年会議所にはＪＣ宣言・綱領、ＪＣＩクリード、ＪＣＩミッション・ビジョンがあります。ここに込められた意義を理解した上で活動を行う事が重要です。我々が地域社会の為、そして「明るい豊かな社会」の実現の為にどのような気概を持って活動を行っていかなければならないかを再認識し、３５年間の歴史を築き上げてこられた先輩諸兄からの情熱と高い志を受け継ぎ、感謝の心を胸に秘め、先見性を持ち行動しようではありませんか。青年会議所という大人の学び舎に縁あって集った同志が熱くならなければ意味がありません。共に切磋琢磨し、何事にも負けない揺るぎない信念を持ち、がむしゃらに立ち向かう。そんな情熱溢れる、一つの大きな志高いチームとして、次代へと誘(いざな)う燈火になろうではありませんか。そして、私達が夢と誇りを持ち、私達が夢を与えられる人となり、私達が誇りを持てる乙訓(まち)の実現に向け、努力を惜しまず、諦める事なく新たな一歩を一枚岩となって踏み出しましょう。

夢なき者に理想なし
理想なき者に計画なし
計画なき者に実行無し
実行なき者に成功なし
故に、夢なき者に成功なし

変革の能動者である私達ＪＡＹＣＥＥが「明るい豊かな社会」の実現に向け必要なのは、夢を持ち続け、何事にも諦める事なく邁進し続ける事です。

その気概が「ＳＴＡＹ　ＤＲＥＡＭ」

２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所

スローガン・テーマ

【スローガン】

ＳＴＡＹ　ＤＲＥＡＭ

【テーマ】

ー大志を抱き、次代へと誘(いざな)う燈火となれー

２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所

基本理念・基本方針

【基本理念】

ファイナルアクションプランに基づいた活動

変革の能動者として混沌という未知の可能性を切り拓く
人財が集う組織を目指す

市民一人ひとりが夢と誇りを持てる乙訓(まち)の創造

【基本方針】

市民による主体的、継続的なまちづくりへの礎を築き地域力の向上を目指そう

未来を担う乙訓(まち)の宝と、魅力ある乙訓(まち)のリーダーを育てよう

互いの魅力を高め合い、本物の絆を構築する強固な組織を目指そう

公益で円滑な組織運営を妥協なく行おう

２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所

基　本　計　画

【事　業　計　画】

（１）青少年育成、教育文化スポーツ交流事業
　　文化少年団事業（年９回の開催）
　　乙訓ふるさとふれあい駅伝の参画協力
　　青少年育成研修事業の開催

（２）まちづくり事業
　　まちづくり事業の開催
　　二市一町地域検証会の開催

（３）地域経済及び地域振興の研究、研修事業
　　経営研修事業の開催
　　人づくり研修事業の開催

（４）会員交流及び組織維持目的事業
　　会員交流会の開催
　　会員拡大を目的とした説明会等の開催
　　新人会員の勉強会の開催

（５）ＪＣＩ・公益社団法人日本青年会議所・近畿地区協議会・京都ブロック協議会への参加・協力
　　ＪＣＩ：ＡＳＰＡＣ・世界会議・各種事業
　　公益社団法人日本青年会議所：京都会議・サマーコンファレンス・全国大会・各種事業
　　近畿地区協議会：近畿地区大会・各種事業
　　京都ブロック協議会：京都ブロック大会・各種事業

２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所
委　員　会　活　動　計　画

１．全委員会

①　会員拡大活動と魅力伝播委員会への連携と協力
②　まちづくり事業、青少年育成事業への参加・協力

２．「市民による主体的、継続的なまちづくりへの礎を築き地域力の向上を目指そう」
（ＪＣ運動推進室）

（地域力向上委員会）
①　５月例会の開催（オープン例会）
②　９月例会・広域な連携を推進し地域力が向上する事業の開催
③　二市一町の行政・各諸団体との連携
④　公益社団法人日本青年会議所・協働運動の連携と推進
⑤　各種選挙における公開討論会の実施

（ＪＣ運動発信委員会）
①　４月メモリアル１００％出席例会の開催
②　１０月例会の開催
③　京都ブロック協議会会長公式訪問の開催
④　行政地域諸団体の情報の収集及び管理
⑤　青年会議所活動及び地域活動の外部発信並びに会報「おとくに新聞」の制作・発行及び管理（年１２回）
⑥　公式ホームページの制作及び管理
⑦　ＬＯＭ外情報に関する内部発信
⑧　ＬＯＭ内外各種事業の記録データ管理
⑨　理事長対談の取材に関する事項
⑩　ＪＣＩ・公益社団法人日本青年会議所・近畿地区協議会・京都ブロック協議会・各地青年会議所に関する案内・登録手続きに関する事項
⑪　出向者支援に関する事項
⑫　各事業案内のとりまとめに関する事項

３．「未来を担う乙訓（まち）の宝と、魅力ある乙訓（まち）のリーダーを育てよう」
（人財育成室）

（青少年育成委員会）
①　６月例会の開催（オープン例会）
②　ケイジャーズカップ実行委員会への連携
③　乙訓文化少年団の運営
④　乙訓地方小学生駅伝大会委員会への連携
⑤　公益社団法人日本青年会議所・協働運動の実践

（研修委員会）
① ３月例会の開催（オープン例会）
② ７月例会の開催（オープン例会）
③ １１月例会の開催（オープン例会）
④ 研修事業の開催

４.「互いの魅力を高め合い、本物の絆を構築する強固な組織を目指そう」
（組織力向上室）

（魅力伝播委員会）
① 会員拡大活動の実施
② 入会説明会の開催
③ ２月例会の開催（オープン例会）
④ ＦＴセミナーの開催
⑤ 異業種交流会の開催
⑥ 各委員会への会員拡大活動の支援
⑦ 会員拡大活動に関する情報管理と更新
⑧ 新入会員の入会に至るまでのサポート
⑨ 新入会員の入会後のサポート
⑩ 新入会員入会式の設営・運営

（絆委員会）
① １月例会・新春交歓会の開催
② ８月例会・納涼会の開催（家族・社員参加型）
③ １２月卒業式・忘年会の開催
④ 会員交流会の開催
⑤ 会員及び特別会員との親睦に関する事項

５.「公益で円滑な組織運営を妥協なく行おう」
（総務室）

（総務財政委員会）
① １２月例会の開催
② 役員セミナー・事務事項説明会の開催
③ 総務及び庶務に関する事項
④ 事務局の管理運営に関する事項
⑤ 会員名簿及び基本資料の作成
⑥ ＬＯＭ運営マニュアルの作成
⑦ 会員の褒賞・表彰及びブロック等への事業褒賞申請に関する事項
⑧ 総会及び理事会・正副理事長会議の設営・運営
⑨ 総務審査会議の設営・運営
⑩ 議案の管理に関する事項
⑪ 財務、会計一般に関する事項
⑫ 財務、コンプライアンス会議の設営・運営

公益社団法人乙訓青年会議所
第2次収支予算書(案)
2015年1月1日から2015年12月31日まで

（第1法）　　（単位：円）

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
Ⅰ　事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入	5,000	6,000	−1,000	
特定資産利息収入	5,000	6,000	−1,000	
②入会金収入	1,560,000	1,770,000	−210,000	
新入会員入会金収入	720,000	720,000	0	@60,000円×12名（毎月1名の入会者を想定）
特別会員入会金収入	840,000	1,050,000	−210,000	@70,000円×12名（2014年度卒業生）
③会費収入	9,350,000	9,350,000	0	
正会員会費収入	8,450,000	8,450,000	0	@130,000円×65名（1月1日現在の正会員数）
新入会員会費収入	900,000	900,000	0	1月～12月迄毎月入会者1名を想定
賛助会員会費収入	0	0	0	
④事業収入	818,000	818,000	0	
事業費繰入収入	0	0	0	
登録料収入	400,000	400,000	0	文化少年団@10,000円×40名
販売収入	0	0	0	
預り金収入	418,000	418,000	0	ブロック大会@4,000×（65名＋4名）＋@2,000×地区大会（65名＋6名）
雑収入	0	0	0	
⑤補助金等収入	0	0	0	
国庫補助金収入	0	0	0	
地方公共団体補助金収入	0	0	0	
民間補助金収入	0	0	0	他LOMからの補助金等（本年も無し）
補助金等交付業務受託収入	0	0	0	
国庫助成金収入	0	0	0	
地方公共団体助成金収入	0	0	0	
民間助成金収入	0	0	0	
⑥寄付金収入	0	860,000	−860,000	
飛竹会寄付金収入	0	500,000	−500,000	35周年に伴う寄付金（前年度）
歴代理事長会寄付金収入	0	360,000	−360,000	35周年に伴う寄付金（前年度）
その他寄付金収入	0	0	0	
⑦雑収入	41,500	1,500	40,000	
受取利息収入	1,500	1,500	0	
京都ブロック協議会受入収入	0	0	0	
その他雑収入	40,000	0	40,000	乙訓JCじゃがいもクラブ事務局費、JCカード手数料
事業活動収入計	11,774,500	12,805,500	−1,031,000	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	6,491,000	10,226,000	−3,735,000	
総務財政委員会	187,000	210,000	−23,000	役員セミナー、12月例会
青少年育成委員会	1,085,000	1,202,000	−117,000	文化少年団（募集含む）、6月ｵｰﾌﾟﾝ
地域力向上委員会	1,410,000	0	1,410,000	5月ｵｰﾌﾟﾝ、9月地域力向上事業
研修委員会	1,020,000	0	1,020,000	3月ｵｰﾌﾟﾝ、7月ｵｰﾌﾟﾝ、11月ｵｰﾌﾟﾝ、資質向上
JC運動発信委員会	160,000	0	160,000	4月ﾒﾓﾘｱﾙ、10月例会
魅力伝播委員会	450,000	0	450,000	新入会員募集、2月ｵｰﾌﾟﾝ例会、FTセミナー
絆委員会	1,080,000	0	1,080,000	1月新春、8月納涼、12月卒業式
まちづくり委員会	0	400,000	−400,000	6月オープン例会
人間力向上委員会	0	1,230,000	−1,230,000	3月ｵｰﾌﾟﾝ、7月ｵｰﾌﾟﾝ、11月ｵｰﾌﾟﾝ、資質向上
広報渉外委員会	0	250,000	−250,000	10月地域振興検討例会
会員拡大委員会	0	255,000	−255,000	新入会員募集、2月例会、FTセミナー
会員交流委員会	0	1,150,000	−1,150,000	1月新春、8月納涼、12月卒業式
35周年特別委員会	0	4,580,000	−4,580,000	35周年PR、4月35周年、記念事業、記念誌
特別事業費支出	681,000	531,000	150,000	駅伝、災害時拠出金、公開討論会(長、向)、KARA1、会長訪問
預り金支出	418,000	418,000	0	ブロック大会@4,000×（65名＋4名）＋@2,000×地区大会（65名＋6名）
事業予備費支出	0	0	0	
②管理費支出	5,251,746	5,662,581	−410,835	
会議費支出	330,000	450,000	−120,000	総会、総務、正副、理事会他会場費
給料手当支出	1,800,000	1,800,000	0	事務局員　@150,000円×12ヶ月
退職給付費用	105,000	105,000	0	月額給与150,000円×70%を毎年積立
福利厚生費支出	320,000	310,000	10,000	事務局員社会保険料、対内向けの慶弔金等
旅費交通費支出	100,000	100,000	0	事務局員交通費
通信・発送費支出	550,000	530,000	20,000	電話代、切手、定例発送
消耗品支出	220,000	300,000	−80,000	2015年度スローガン幕、封筒、文具他
リース料支出	21,789	21,183	606	コピー機1年間
修繕費支出	0	0	0	
印刷製本費支出	220,000	95,000	125,000	総会資料印刷費、コピー機印刷費等,基本資料（15万）
光熱水料費支出	0	0	0	
賃借料支出	374,457	600,000	−225,543	@44,457×1回+@30,000×11回
業務委託支出	0	0	0	
インフォメーション関係費支出	503,000	601,535	−98,535	おとくに新聞、サーバー、ドメイン、ホームページ変更料
保険料支出	0	0	0	
租税公課支出	6,000	3,000	3,000	印紙代
渉外費支出	40,000	60,000	−20,000	対外向けの慶弔金、電報等
雑支出	661,500	686,863	−25,363	ﾈｯﾄﾊﾞﾝｷﾝｸﾞ使用料 JCﾊﾞｯﾁ　会員ﾈｰﾑﾀｸﾞ、会計士手数料他
管理・運営予備費支出	0	0	0	
③負担金支出	1,652,745	1,703,043	−50,298	
JCI負担金支出	97,020	87,318	9,702	@1,260円×（65名+12名）※前年度は@1,134円
日本JC負担金支出	430,000	430,000	0	
基本金支出	60,000	60,000	0	会員数50名迄が30,000円　25名増す毎に15,000円を追加
付加金支出	370,000	370,000	0	@5,000円×（65名+6名）＋@2,500円×6名

近畿地区協議会負担金支出	135,200	135,200	0	
基本金支出	2,000	2,000	0	
付加金支出	133,200	133,200	0	@1,800円×(65名+6名)＋@900円×6名
京都ブロック協議会負担金支出	548,000	548,000	0	
基本金支出	30,000	30,000	0	
付加金支出	518,000	518,000	0	@7,000円×(65名+6名)＋@3,500円×6名
国際協力資金支出	140,525	140,525	0	@1,825円×(65名+12名)
日本JC出向者負担金支出	80,000	140,000	−60,000	@20,000円×4名
WeBelieve購読料支出	222,000	222,000	0	@3,000円×(65名＋6名)＋@1,500円×6名
④他会計への繰入金支出	0	0	0	
一般会計への繰入金支出	0	0	0	
他会計への繰入金支出	0	0	0	
事業活動支出計	13,395,491	17,591,624	−4,196,133	
事業活動収支差額	−1,620,991	−4,786,124	3,165,133	
科目	予算額	予算額	増減	備考
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入	650,000	3,550,000	−2,900,000	
会員基本基金資産取崩収入	500,000	1,050,000	−550,000	
周年事業引当資産取崩収入	0	2,500,000	−2,500,000	
文化少年団基金取崩収入	150,000	0	150,000	前年度は定期預金契約の縛りの為2013年度に取崩し
退職給付引当資産取崩収入	0	0	0	
②固定資産売却収入	0	0	0	
土地売却収入	0	0	0	
建物売却収入	0	0	0	
構築物売却収入	0	0	0	
車両運搬具売却収入	0	0	0	
什器備品売却収入	0	0	0	
電話加入権売却収入	0	0	0	
③固定資産取崩収入	0	0	0	
減価償却積立資産取崩収入	0	0	0	
④敷金・保証金戻り収入	0	0	0	
敷金戻り収入	0	0	0	
出資金戻り収入	0	0	0	
投資活動収入計	650,000	3,550,000	−2,900,000	
2. 投資活動支出				
①特定資産取得支出	500,000	500,000	0	
会員基本基金資産取得支出	0	0	0	
周年事業引当資産取得支出	500,000	500,000	0	
退職給付引当資産取得支出	0	0	0	
②固定資産取得支出	0	0	0	
土地取得支出	0	0	0	
建物取得支出	0	0	0	
構築物取得支出	0	0	0	
車両運搬具取得支出	0	0	0	
什器備品取得支出	0	0	0	
電話加入権取得支出	0	0	0	
減価償却積立資産取得支出	0	0	0	
③敷金・保証金支出	0	0	0	
敷金支出	0	0	0	
出資金支出	0	0	0	
投資活動支出計	500,000	500,000	0	
投資活動収支差額	150,000	3,050,000	−2,900,000	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
①借入金収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
①借入金返済支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	−1,470,991	−1,736,124	265,133	
前期繰越収支差額	1,470,991	1,736,124	−265,133	
次期繰越収支差額	0	0	0	

２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所

会議構成員

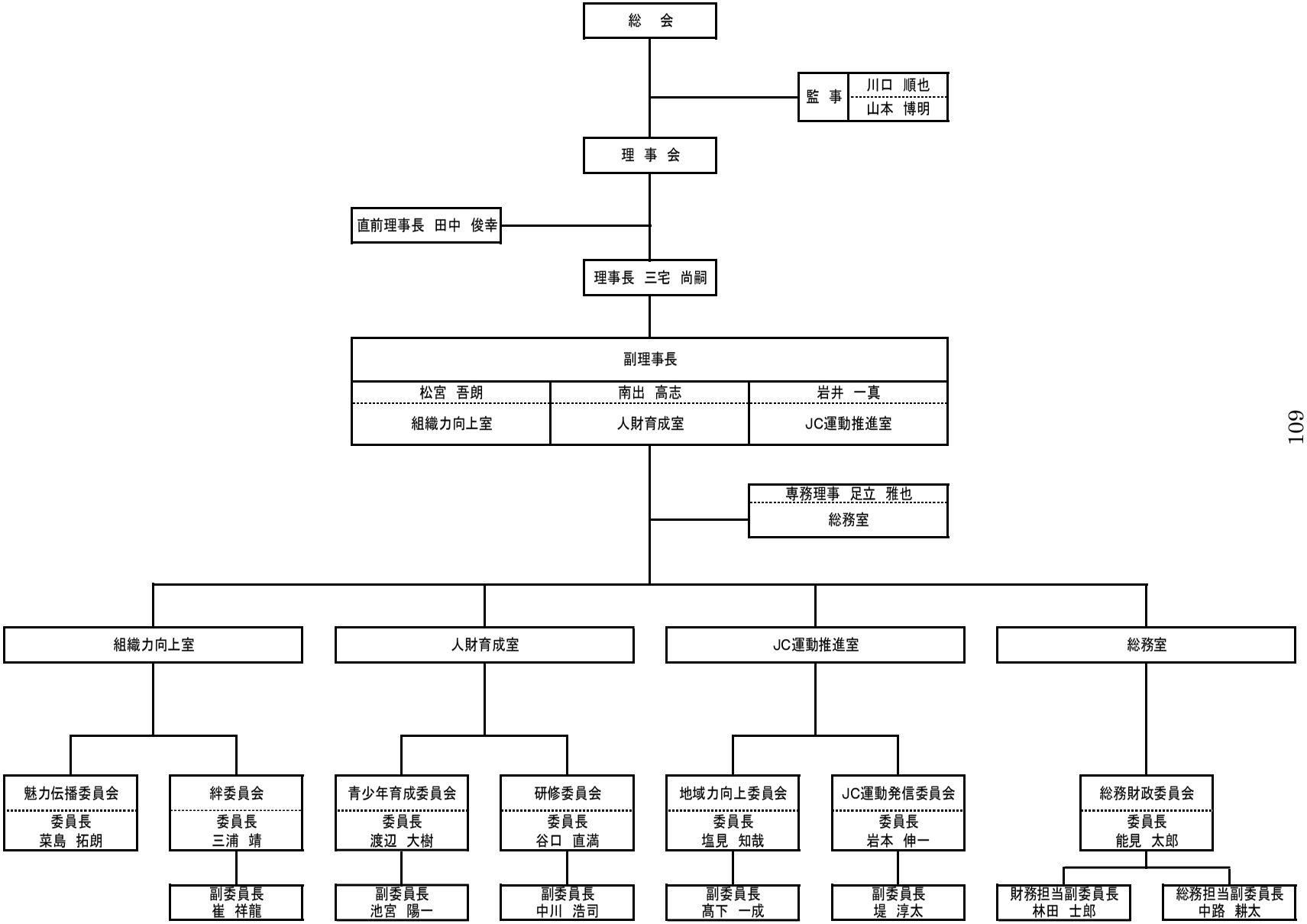
			理事会	正副理事長会議
理事長		三宅　尚嗣	○議長	○議長
副理事長		松宮　吾朗	○	○
副理事長		岩井　一真	○	○
副理事長		南出　高志	○	○
専務理事		足立　雅也	○	○
理　事	（ＪＣ運動発信委員会　委員長）	岩本　伸一	○	▲
理　事	（地域力向上委員会　委員長）	塩見　知哉	○	▲
理　事	（研修委員会　委員長）	谷口　直満	○	▲
理　事	（魅力伝播委員会　委員長）	菜島　拓朗	○	▲
理　事	（総務財政委員会　委員長）	能見　太郎	○	▽司会
理　事	（絆委員会　委員長）	三浦　靖	○	▲
理　事	（青少年育成委員会　委員長）	渡辺　大樹	○	▲
理　事	（青少年育成委員会　副委員長）	池宮　陽一	○	▲
理　事	（地域力向上委員会　副委員長）	髙下　一成	○	▲
理　事	（絆委員会　副委員長）	崔　祥龍	○	▲
理　事	（ＪＣ運動発信委員会　副委員長）	堤　淳太	○	▲
理　事	（研修委員会　副委員長）	中川　浩司	○	▲
理　事	（総務財政委員会　副委員長）	中路　耕太	○	▽
理　事	（総務財政委員会　副委員長）	林田　士郎	○司会	▽
監　事		川口　順也	□	□
監　事		山本　博明	□	□
直前理事長		田中　俊幸	□	□

※公益社団法人乙訓青年会議所定款第１７条第３項の定める副理事長の職務代行順位は
　上段よりとする。

○：構成員
□：常時出席の上、発言できる
▽：常時オブザーブ
▲：議長の要請を受けて出席する
　　理事会議事録：事務局長

2015年度　公益社団法人乙訓青年会議所

組織図



２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所　委員長方針

ＪＣ運動発信委員会　委員長　岩本　伸一

乙訓青年会議所は、先輩諸兄が「明るい豊かな社会」の実現を目指して発足されました。乙訓地域を想い活動されてこられ、昨年創立３５周年を迎え「ファイナルアクションプラン」により２０２０年ビジョンに対する方向性が定まりました。この指針を実現させる為には、歴史と伝統を継承し、更なる発展を遂げなければなりません。その為にもメンバーが乙訓青年会議所の運動についてしっかり把握する必要があると共に、地域の皆様に我々の運動に対して理解と協力を頂く事が必要です。まず、我々の活動を深く知って頂く事が始まりと考えます。乙訓青年会議所を身近に認識して頂き、共感を得る事で「信頼される団体」「必要とされる団体」へとなる事が出来ます。地域の皆様との相互理解をより深める為には、乙訓青年会議所がより確固たるパイプ役となる事が、市民、諸団体、行政の三位一体の活気あるまちづくりへ繋がると考えます。

ＪＣ運動発信委員会では、現在活用しているホームページ、ＳＮＳ、おとくにしんぶんをより充実した魅力あるものに致します。我々の活動ばかりではなく地域団体の活動を取り上げ、本質の見える有益な情報を発信する事で乙訓青年会議所の存在をさらに身近に認識して頂き、共感を得られる情報を発信して参ります。４月メモリアル１００％出席例会では、メンバー全員で先輩諸兄が築き上げてこられた素晴らしい歴史と伝統に感謝と尊敬の念を抱き、乙訓青年会議所の現在に至るまでを振り返ります。そして、感謝の心を念頭に置きこれからの時代に必要とされる運動を考えて頂く事で、青年会議所活動に対する意識が更に向上する例会を設営します。１０月例会では、出向しているメンバーから活動内容、出向する事でしか学べない気づきを発表して貰う事で、大きく成長した姿を見て感じて頂き、次年度以降の出向意欲に繋がる例会を開催します。渉外業務では、ＪＣＩを始め公益社団法人日本青年会議所、近畿地区協議会、京都ブロック協議会、府内各地青年会議所の事業に関する登録手続きや各種案内を迅速かつ正確に情報発信を行い、多くの学びがある事業に積極的に参加してもらえる様努めます。まちづくり事業や青少年育成事業を始めとするＬＯＭ事業にも積極的に参加し各委員会と連携して参ります。また、一人でも多くの熱い志を持った同志を増やす為にも率先して会員拡大活動にも取り組んで参ります。

結びに、私は本年度「挑戦」をテーマに活動します。自ら率先して行動し強い意志と自覚を持って活動します。委員会メンバーにも挑戦する気概を持つ人財として、広く親しんで頂ける乙訓青年会議所の運動発信をする事により大きく成長する事を確信します。そして、委員会メンバーが全員主役となり互いを敬い尊重し切磋琢磨していく委員会運営をします。さらには、「明るい豊かな社会」の実現という夢に向かって諦める事なく邁進していき、乙訓青年会議所がより力強く元気になり発展し続けていけるよう活動して参ります。

２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所　委員長方針

地域力向上委員会　委員長　塩見　知哉

創立当初より、乙訓青年会議所の先輩諸兄は「明るい豊かな社会」の実現を目指し、輝く未来を見据え、地域に根ざしたまちづくり運動を展開して来られました。私達は先輩諸兄に感謝し、その想いを継承し、努力を惜しまず、諦める事なく情熱を持って歩み続け青年会議所メンバーが意気あふれるリーダーとなり「地球市民意識あふれる乙訓（まち）」の達成に向け活動していかなければなりません。

乙訓地域に住まう一人ひとりが体者意識を持って頂く為には、乙訓青年会議所メンバーが変革の能動者となり「自立、共生、創造」の心を持って活動し、そのビジョンを持って運動を広げなくてはなりません。そして、地域に信頼される団体となり、市民、地域諸団体、行政の方々との連携を更に強化し、市民参加型の事業形態ではなく市民主導の事業へ展開を行う事が地域力の向上に繋がると考えます。

本年度、地域力向上委員会は市民、地域諸団体、行政を繋ぐパイプ役となり、ファイナルアクションプラン「地域と共に夢と誇りを育む乙訓（まち）創り」の目的達成の為に、地域コミュニティの活性化や連携強化となる機会を創出します。「明るい豊かな社会」を目指す想いはどの団体も同じです。各諸団体の活動に能動的に取り組み、より力強い信頼関係を築きます。５月オープン例会では、これまでの乙訓地域のまちづくり活動を振り返り、市民、地域諸団体、行政の方々と今後、乙訓地域が向かうべき方向性を活発に議論する例会を開催致します。９月例会では地域力向上事業の成功に向け、メンバー全員でまちづくりに対する意識の共有を図ります。そして地域力向上事業では、昨年度に開催された３５周年記念事業の事後報告意見交換会での意見をもとに検証し、参加して頂いた人々にとって気づきや学びを得られる事業を行い、市民による主体的、継続的なまちづくりへの礎を築き地域力の向上に繋がる事業を開催致します。地域の未来に直接影響を与える選挙に於いて市民の皆様の政治参画意識が低下傾向にあります。この状況を打破する為にも、政治への興味を喚起し、自分たちの未来を真摯に考える機会を創出する事が市民主導型社会の実現に繋がると考え公開討論会を開催致します。また我々の運動や活動を市民の方々に対して本質の見える有益な情報を発信する事が重要です。ＪＣ運動発信委員会と連携し、地域諸団体、行政の情報の収集にも力を注ぎ活動して参ります。また組織を強固な物にする為に率先して会員拡大に取り組み、地域の未来とも言うべき子ども達の健全な育成の為に青少年育成活動にも積極的に参加します。

最後に私自身が今まで以上に乙訓（まち）を愛し、乙訓青年会議所メンバーである事に誇りを持ち、情熱を持ってまちづくり活動に取り組みます。そして委員会メンバーに市民、地域諸団体、行政と乙訓青年会議所を繋ぐパイプ役を担う重要な委員会の一員である事を伝達し、１年間の活動を通して委員会メンバーとの絆を深め、地域力の向上を目指し一枚岩となり活動して参ります。

２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所　委員長方針

研修委員会　委員長　谷口　直満

現在、日本の景気は回復傾向にあると言われていますが、我々が生活をしている中ではなかなか実感する事が出来ていません。現状を踏まえて今後、更に今の日本を発展させる為に、我々青年会議所メンバーは、青年経済人として模範となる地域のリーダーになり活躍して、社会的責任を果たす事が必要です。また、経営者として地域に必要とされる人財になる為に資質の向上を図る事が必要です。

まず、我々青年会議所メンバーが模範となる地域のリーダーになる事によって、乙訓(まち)が活性化し、より魅力的なまちの創造に繋がります。その為には、青年経済人としてしっかりとした自己の確立をしなければなりません。そして自身の企業を存続発展させ、品位を持ち相手の気持ちに立って思いやりを持つ事で、周囲から信頼される人にならなければなりません。

本年度、研修委員会では、３回のオープン例会と研修事業を開催致します。３月例会では自己の確立をする為に自分自身を見つめ直し、努力を惜しまず何事にも諦めず情熱を持って行動する必要性を認識して頂き、目の前の課題に向き合い、立ち向かう強い心を身に付けて頂きます。そして、研修事業では、立ち振る舞いや礼儀作法を学び、落ち着いた態度や言葉遣い、周囲への気配りを積極的に行動出来る事を身に付けて頂き品位の向上に繋げて頂きます。７月例会では、自分自身の企業の存続と発展をさせて利潤を確保し企業基盤の確立を強化して頂きより地域から必要とされる人財へと成長し、一人ひとりの力を発揮して活気あふれる乙訓(まち)を目指し、より魅力的なまちの創造に繋げて頂きます。そして１１月例会では、仕事や私生活で関わり合いのある人達を大切にし、感謝の気持ちと相手を思いやる心を持ち、誠実さを持って行動する事を理解して頂き、関わり合いのある人との信頼関係を構築して良好な人間関係が築ける人になって頂きます。また、地域の未来を担う子供達を育てる為や、地域により貢献するまちづくり活動にも青少年育成委員会、地域力向上委員会との連携を図り参加協力致します。一人でも同じ志を持った同士を増やす為に、会員拡大活動に於いても魅力伝播委員会への連携と協力を、研修委員会メンバー全員で積極的に参加し１年間活動して参ります。

最後に、研修委員会では「人は財産」を常に念頭に置き、まずは委員会メンバー一人ひとりがお互いを思いやり、自己成長出来る委員会運営を心掛け活動して参ります。そして、自分自身が委員会のリーダーとして、常に努力を怠らず積極的な姿勢を持ち続け活動致します。その中で、一生懸命に楽しんで取り組み委員会が一致団結し、委員会メンバーが人財育成出来た時には、自らの会社を存続、発展させ続け、地域に貢献出来るまちを創造する為の一助となるよう全力で取り組んでいきます。全メンバーはもちろんの事、オープン例会に足を運んで頂く地域の皆様にも学びの多い１年になる様に委員会メンバーと共に一丸となり取り組んで参ります。

２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所　委員長方針

魅力伝播委員会　委員長　菜島　拓朗

１９７９年に設立されて以来、乙訓青年会議所は３５年の長きに渡って、先人たちから脈々と受け継がれてきた情熱と高い志を受け継ぎ、その歴史と伝統を守りながら現在まで活動してきました。我々が目指す「明るい豊かな社会」の実現に向け、今後もその燈火を絶やす事なく組織の維持と発展をさせていく為にも、同じ志を持った仲間を一人でも多く発掘していく必要があります。なぜならば、会員数を減少させる事は、事業の実施や組織の運営に大変影響を及ぼす事となるからです。近年、全国の青年会議所にて会員数が減少傾向にある中で、乙訓青年会議所ではここ数年一定の会員数を維持する事が出来ており、我々が行ってきた運動の維持と、その運動を更に大きく展開させていく為に、メンバー全員が魅力を高め、周りに伝播していかなければなりません。

本年度、魅力伝播委員会では２２名の会員拡大を目標に掲げ、目標を達成する為に様々な事業を行っていきます。乙訓ＪＣ説明会では、乙訓青年会議所の歴史や理念、活動内容をお伝えした上で、参加者に青年会議所へ入会する事で得られるかけがえの無い経験や魅力を理解して頂きます。また、メンバーとの意見交換等の交流を通して親睦を深めて頂き、後の入会へと繋げます。更には、魅力伝播委員会が先頭に立ち、新入会員へのサポートをメンバー全員で行い、新入会員の様々な事業への積極的な参加に繋げます。２月オープン例会では、多くの入会候補者をお招きし、リーダーとして人間魅溢れる人財になって頂く必要性をお伝えすると共に、参加者自身が魅力を高める意識を持って頂きます。一人ひとりの魅力ある姿こそが、同志が同志を呼ぶ魅力ある組織の構築に繋がると確信します。ＦＴセミナーでは、入会間もないメンバーに青年会議所の基礎知識をしっかりと身につけて頂く事はもとより、ＦＭメンバー同士の友情を深めて頂きます。また、多くのメンバーに参加して頂き事業を見届ける事で、メンバー同士の絆を深め今後の活動に対する原動力として頂きます。異業種交流会では、年齢に捉われず様々な年代の方と、情報、意見交換等を通して交流を深めると共に、今後の活動に向けて実りある場として頂きます。また、同室である絆委員会をはじめとする各委員会と協力する事はもとより、夢と誇りを持てる乙訓（まち）を目指すまちづくり事業、次代の宝を育てる青少年育成事業への積極的な参加、協力を致します。

結びに、本年度魅力伝播委員会では「勇往邁進」をテーマに、まずは委員会メンバー自身が魅力溢れるＪＡＹＣＥＥとなり、魅力を伝播する事で真の絆を構築出来る組織の一員へとなって頂きます。また、各種事業への積極的な参加はもとより、会員拡大活動に諦める事なく取り組む為に委員会メンバー全員が一枚岩となって活動します。そして、誇りを持てる乙訓（まち）の実現に繋げる為、一人でも多くの同志を募り、一人ひとりが夢と誇りを持った次代へと誘（いざな）う燈火となり邁進して参ります。

２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所　委員長方針

総務財政委員会　委員長　能見　太郎

乙訓青年会議所は、１９７９年に誕生し「明るい豊かな社会」の実現という理念のもと創立３５周年を迎える事が出来ました。そして、先輩方が志に向かい強い信念を持って諦める事無く活動され、想いと誇りを今日まで引き継いでこられました。その理念を我々もしっかり引き継ぎ、大きな志と夢を持って行動し次代へと繋げて行かなければなりません。また、５年目を迎える公益団体として今後も地域から必要とされ、信頼される団体になる為にも管理体制、組織運営を妥協無く行い、これまで築き上げられて来た組織基盤をもとに組織力を向上させる必要があります。

本年度、総務財政委員会はこれまで脈々と引き継いで来た会議運営を維持しながら、更に議案書フォームを進化させると共に、議案上程前に各自でしっかり最終確認が出来るチェック表を導入し、限りある時間の中でより円滑な会議が行える様に運営します。また「計画、実行、検証、引き継ぎ」の流れの中で各委員会と意志の疎通を密に図り、情報を共有しながら議案上程時により活発な議論を行って頂ける様に運営します。

公益社団法人として市民に開かれた公な団体である自覚を再認識すると共に、運営方法や予算編成、執行に関するチェックやコンプライアンスに対する意識を周知徹底し信頼性、透明性の高い管理体制を築きます。また、皆様の貴重な年会費から拠出する事業費に於いて予算執行に問題が無いか精査するだけで無く、事業の目的に於ける費用対効果も審査していきます。役員セミナーでは、理事長の講演を通して本年度の活動方針と方向性を理解して頂きます。そして、初めて役員を担われるメンバーが多数おられる事を考慮し、講師の方に役員としての責任や心構えを伝えて頂くと共に、ビジョンと現状と課題についての講演を通して、役員としての自覚と誇りを持ち新たな気持ちで１年のスタートを切って頂きます。事務事項説明会では、効果的な会議と運営基盤を確立する為にもロバート議事法の説明を交えて会議のシステムとルール、会議運営を理解して頂き円滑な組織運営を行える様に備えます。１２月例会では、１年間の活動の集大成として顕著な活動を行ったメンバーを称え、理事長に各委員会活動を振り返り総括して頂きます。そして、全てのメンバーが夢と誇りを持ち、目的に向かって次年度に邁進して頂ける様に設えます。また、各担当委員会と連携し「明るい豊かな社会」の実現を目指す為のまちづくりや青少年育成事業、理念を共有出来る同志を増やす為の会員拡大に於いても率先して参加、協力させて頂きます。

会議運営を担う委員会としての責任と誇りを持ちながら、厳しく妥協せずに守るべきルールを周知徹底して参ります。そして「人の為に燈火となり灰になるまで燃え尽きよう」をテーマに１年間委員会メンバーに、人の為に役立つ喜びと感動を共有して頂き、共に情熱を灯し各委員会に思いやりを持ってサポートして参ります。

２０１５年度　公益社団法人　乙訓青年会議所　委員長方針

絆委員会　委員長　三浦　靖

乙訓青年会議所は、青年としての英知と勇気と情熱を胸に、先輩諸兄から３５年に渡って受け継がれてきた気概を継承し、地域の負託と信頼に応えるべく活動しております。この活動を継続させる先には、私達が目指す「明るい豊かな社会」の実現があります。今年度３６年目を迎える乙訓青年会議所は、「ＳＴＡＹ　ＤＲＥＡＭ」の想いを胸に、青年会議所運動と活動の意義をメンバー全員で意識の共有を図り、その中で「やる時はやる、遊ぶ時は遊ぶ」のメリハリを付け、相手の事を思いやり「ええもんはええ、あかんもんはあかん」と意見を出し合い、夢を語り合い、何でも真剣に相談出来る人間関係を築く為には、真の絆を構築する必要があります。

そこで、１月例会及び新春交歓会では、「ＳＴＡＹ　ＤＲＥＡＭ」に込められた熱い想いと、今年度乙訓青年会議所の方向性を出席者全員に理解して頂きます。そして、行政関係、特別会員、他ＬＯＭとの交流を図り、感謝の気持ちをしっかりと相手にお伝え致します。会員交流会では、絆づくりのスタートとして、まずは委員会内の交流を深めて頂きます。３ＬＯＭ合同交流会では、３ＬＯＭが交流をする事で更に友好を深め、活動の可能性を広げる事を目的と致します。８月例会及び納涼会では、前半の活動を振り返り、後半に向けより一層絆を深めて頂く交流の場と致します。又、ご家族や社員の方にもご参集賜り、青年会議所活動が家族と社員の理解と協力の上で成り立っているという事を忘れる事なく感謝の気持ちをしっかりと伝えると共に、メンバーの志と活動内容を知って頂く機会を設け、私達の賛同者となって頂く設えを致します。１２月卒業式及び忘年会では、卒業生の青年会議所活動の功績を称え、心に残る感動的な設えを致します。忘年会ではメンバーの１年間の活動を労い、今年１年の活動で深まった絆を確認し合うと共に、次年度への活力となる設えを実施致します。又、乙訓青年会議所活動の更なる拡充の為、同室である魅力伝播委員会と協力し率先して会員拡大活動に取り組んで参ります。公益団体として大きな担いでもある、地域の未来を担う子供達を育てる為の青少年育成活動、地域の活性化に繋がるまちづくり活動にも積極的に取り組んで参ります。

結びに、まずは私達委員会メンバー全員に、人と関わりを持つ事の意義を理解して頂きます。即ち、人と関わる事で自分が変わり、自分が変わる事で自分の人生が変わる。同様に自分と関わる事で人も変わるという事を理解して頂きます。人は一人として同じではありません。その状況の中、自分が人と関わる事で、そこから何を感じ、何を思うか。その感じた自分の想いを一人の人間として、自分の五感全てを持って伝える。その思いが他のメンバーに伝播し、事業を重ねていく中で真の絆が出来ると考えます。メンバー間に真の絆が出来る事で、乙訓青年会議所が更に一致団結した団体になると確信致します。「相手の事を想いながら、心で感じ、五感で伝える」。その気持ちで１年間行動して参ります。

２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所　委員長方針

青少年育成委員会　委員長　渡辺　大樹

私達の少年時代は、子どもと真剣に向き合い正しい方向に導いてくれる大人が地域にいて、子どもながらに善悪の判断を身に付ける事が出来ました。いつの時代も子どもは大人の背中を見て育つものであり、そう言った大人との関わりの中で、夢や志を持ち続ける大人の姿に憧れたものでした。しかし、地域コミュニティの希薄化等で子ども達と向き合いコミュニケーションを図る機会が少なくなったと感じます。その結果、道徳心や強い志を持ち続ける事の大切さを伝える機会が減少しているのではないでしょうか。このような現代社会で、子ども達と対面コミュニケーションを図りながら、人とひととの繋がりから生まれる道徳心や強い志を伝える事が必要不可欠だと考えます。

乙訓青年会議所の先輩諸兄は、未来を担う乙訓（まち）の宝である子ども達が、元気で明るく育って欲しいと願い、青少年の健全育成にご尽力されて来ました。その想いを引き継ぎ、「地域と共に夢と誇りを育む乙訓（まち）の創造」に向け、今一度私達が地域の大人として、子ども達と真剣に向き合い、良い事、悪い事をしっかり伝えて行く必要があります。そして、地域の大人として責任を自覚し、背中を見られている事を意識して行動をしなければなりません。そして子ども達と積極的にコミュニケーションを図り様々な経験を得て子ども達も私達自身も、豊かな心を併せ持つ人財に成長出来れば、「明るい豊かな社会」の実現に繋がると考えます。

本年度、青少年育成委員会では、未来を担う乙訓（まち）の宝である子ども達が、集団行動を通じ、コミュニケーションを図る中で和の心や利他の精神を養って頂ける様に、各委員会に協力して頂き、４月から１２月にかけて文化少年団を運営致します。ケイジャーズカップでは、実行委員会と協働して、選手が挫折や失敗を乗り越え、目標に向かって熱闘を繰り広げられる大会運営を行います。６月例会では、大人が道徳心を持って子ども達との関わり方を見つめ直す機会として地域の方々と共に学ぶオープン例会を開催します。第１２回を迎える乙訓ふるさとふれあい駅伝では実施主体である実行委員会と連携して、子ども達が安全で安心して、競技に集中出来、地域コミュニティを実感出来る事業となる様に協働します。そして我々の運動、活動に対し多くの方に賛同を得て、一人でも多くの同志を迎える為に、魅力伝播委員会と連携して会員拡大活動を積極的に行います。又、地域力向上委員会に協力して、地域の活性化に繋がる事業に率先して参加致します。

結びに、青少年育成委員会は、子ども達と積極的にコミュニケーションを図り青少年健全育成の為に子ども達から目を背く事なく真正面から向き合います。又、私自身、委員会メンバーも子ども達から刺激を受け共に学び成長し合い、私自身が強い心を持って行動をする事が地域の方々の手本になると考えます。そして、委員会メンバーと共にどんな時でも明るく楽しく活動し、諦めない気概を持って、邁進して参ります。

2015年度　公益社団法人乙訓青年会議所　委員会配属

正副理事長・監事		8
理事長	三宅　尚嗣	
直前理事長	田中　俊幸	
副理事長	松宮　吾朗	
副理事長	岩井　一真	
副理事長	南出　高志	
専務理事	足立　雅也	
監事	川口　順也	
監事	山本　博明	

JC運動発信委員会		9
委　員　長	岩本　伸一	
副委員長	堤　淳太	
幹事	清水　野分	
委　員	大城　辰也	
委　員	榊原　政人	
委　員	谷川　一俊	
委　員	鳥居　淳希	
委　員	保木　崇志	
委　員	宮下　元明	

魅力伝播委員会		8
委　員　長	菜島　拓朗	
副委員長	渡邊　俊輔	
幹事	佐々木　彰吾	
委　員	上田　崇博	
委　員	上原　史明	
委　員	國府　勝也	
委　員	白須　修平	
委　員	水原　年貴	

総務財政委員会		8
委　員　長	能見　太郎	
副委員長	中路　耕太	
副委員長	林田　士郎	
幹事	田中　望麻	
委　員	中谷　洸太	
委　員	村田　朋紀	
委　員	諸岡　俊之	
委　員	山田　高広	

青少年育成委員会		9
委　員　長	渡辺　大樹	
副委員長	池宮　陽一	
幹事	石井　佑典	
委　員	下平　祐婦子	
委　員	谷川　真也	
委　員	藤井　琢也	
委　員	堀内　あろむ	
委　員	松本　正義	
委　員	村中　志津佳	

絆委員会		9
委　員　長	三浦　靖	
副委員長	崔　祥龍	
幹事	大橋　一隆	
委　員	上坂　彰男	
委　員	厚東　聖一	
委　員	佐伯　昌裕	
委　員	疋田　泰種	
委　員	宮崎　謙介	
委　員	村井　一雄	

地域力向上委員会		9
委　員　長	塩見　知哉	
副委員長	髙下　一成	
幹事	平木　竜馬	
委　員	今井　政樹	
委　員	金子　明日嘉	
委　員	神島　真吾	
委　員	近藤　宏和	
委　員	竹内　義次	
委　員	中　　智哉	

研修委員会		8
委　員　長	谷口　直満	
副委員長	中川　浩司	
幹事	大塚　健介	
委　員	阿部　清隆	
委　員	岩井　泉二郎	
委　員	内海　義潔	
委　員	下戸　一晃	
委　員	豊西　寛行	

２０１５年度　公益社団法人乙訓青年会議所　出向者一覧

【公益社団法人日本青年会議所】

ＪＣプログラム実践委員会	委　員	山本　博明
主権国家確立委員会	委　員	岩井　一真
主権国家確立委員会	委　員	鳥居　淳希
主権国家確立委員会	委　員	村井　一雄
日本の未来選択委員会	委　員	堤　淳太

【公益社団法人日本青年会議所　近畿地区協議会】

地域未来創造委員会	委　員	南出　高志
地域未来創造委員会	委　員	石井　佑典
地域未来創造委員会	委　員	谷川　真也

【公益社団法人日本青年会議所　近畿地区　京都ブロック協議会】

	副会長	松宮　吾朗
ＪＣ運動推進委員会	委員長	中路　耕太
ＪＣ運動推進委員会	総括幹事	清水　野分
ＪＣ運動推進委員会	会計幹事	渡邊　俊輔
ＪＣ運動推進委員会	委　員	川口　順也
ＪＣ運動推進委員会	委　員	佐々木　彰吾
ＪＣ運動推進委員会	委　員	鳥居　淳希
誇り高き京都実現委員会	副委員長	村井　一雄
誇り高き京都実現委員会	委　員	上原　史明
誇り高き京都実現委員会	委　員	厚東　聖一
誇り高き京都実現委員会	委　員	近藤　宏和
誇り高き京都実現委員会	委　員	田中　望麻
国際交流推進委員会	委　員	岩井　泉二郎
国際交流推進委員会	委　員	下平　祐婦子
ブロック大会運営委員会	委　員	内海　義潔
ブロック大会運営委員会	委　員	中川　浩司
ブロック大会運営委員会	委　員	保木　崇志
ブロック大会運営委員会	委　員	堀内　あろむ
ブロック大会運営委員会	委　員	村田　朋紀
公益財政委員会	委　員	大橋　一隆
公益財政委員会	委　員	豊西　寛行
公益財政委員会	委　員	疋田　泰種
総務情報委員会	委　員	大塚　健介
総務情報委員会	委　員	榊原　政人
総務情報委員会	委　員	村中　志津佳

2015年度　公益社団法人乙訓青年会議所　年間公式スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総会	第1回通常総会 30日（金）									第1回臨時総会 2日（金）予定		第2回臨時総会 4日（金）予定
例会	8日（木）	12日（木）	12日（木）	9日（木）	14日（木）	11日（木）	9日（木）	13日（木）	10日（木）	8日（木）	12日（木）	10日（木）
理事会	15日（木）	19日（木）	19日（木）	16日（木）	21日（木）	18日（木）	16日（木）	20日（木）	17日（木）	15日（木）	19日（木）	17日（木）
正副理事長会議	5日（月）	5日（木）	5日（木）	2日（木）	7日（木）	4日（木）	2日（木）	6日（木）	3日（木）	1日（木）	5日（木）	3日（木）
総務財政委員会	22日（木）	26日（木）	26日（木）	23日（木）	28日（木）	25日（木）	23日（木）	27日（木）	24日（木）	22日（木）	26日（木）	24日（木）
青少年育成委員会	19日（月）	16日（月）	16日（月）	20日（月）	18日（月）	15日（月）	20日（月）	17日（月）	21日（月）	19日（月）	16日（月）	21日（月）
地域力向上委員会	26日（月）	23日（月）	23日（月）	27日（月）	25日（月）	22日（月）	27日（月）	24日（月）	28日（月）	26日（月）	23日（月）	28日（月）
研修委員会	7日（水）	4日（水）	4日（水）	1日（水）	6日（水）	3日（水）	1日（水）	5日（水）	2日（水）	7日（水）	4日（水）	2日（水）
JC運動発信委員会	27日（火）	24日（火）	24日（火）	28日（火）	26日（火）	23日（火）	21日（火）	25日（火）	22日（火）	27日（火）	24日（火）	22日（火）
魅力伝播委員会	12日（月）	9日（月）	9日（月）	13日（月）	11日（月）	8日（月）	13日（月）	10日（月）	14日（月）	12日（月）	9日（月）	7日（月）
JC説明会		3日（火）	3日（火）	7日（火）	8日（金）	2日（火）	7日（火）	4日（火）	1日（火）	6日（火）	4日（火）	
絆委員会	21日（水）	18日（水）	18日（水）	15日（水）	20日（水）	17日（水）	15日（水）	19日（水）	16日（水）	21日（水）	18日（水）	16日（水）
その他	事務局開き5日（月） LOMナイト24日（土）	ケイジャーズ予選・決勝 11日（水）15日（日）								FTセミナー 17日（土）～18日（日） 予定	ふるさとふれあい駅伝 28日（土） 予定	卒業式・忘年会 10日（木） 事務局納め 25日（金）
京都ブロック協議会	新春訪問 会長LOM訪問 30日（金）		会頭公式訪問 11（水） 拡大セミナー 30日（月）		憲法事業 1日（金） ブロック大会 城陽 17日（日）	国際事業・ASPAC 11日（木）～14日（日） JC説明会 19日（金）予定		アカデミー事業 24日（月）		本次年度合同会議 30日（金）		
府内青年会議所周年				亀岡周年 25（土）	京丹後周年 31日（日）							
〃　会員会議所	28日（水） 亀岡	28日（土） 山城	27日（金） 舞鶴	23日（木） 宇治	23日（土） 城陽	24日（水） 乙訓	24日（金）		28日（月） 宮津		28日（土） 福知山	
〃　正副役員会議	12日（月） 城陽	13日（金） 亀岡	9日（月） 乙訓	11日（土） 宮津	7日（木） 京都	9日（火） 京丹後	10日（金） 船井		3日（木） 山城	9日（金） 舞鶴	9日（月） 福知山	
〃　財政特別審査会議コンプライアンス審査	16（金）	21日（土）	20日（金）	18日（土）	11日（月）	15日（月）	18日（土）		11日（金）	16日（金）	20日（金）	
近畿地区協議会					GTS 27日～30日	拡大セミナー 22日（月） 昨年度事例	近畿地区大会 11日（土）～12日（日） 草津		近畿チャリティーゴルフ 25日（金） 昨年度事例			
NOM主要事業	京都会議 （京都） 22日（木）～25日（日）						サマーコンファレンス （横浜） 18日（土）～19日（日）		全国大会 （八戸） 24日（木）～27日（日）			
JCI諸会議											JCI世界会議 3日（火）～8日（日）	